

安全のために必ずお守りください

■お客様登録のお願い

製品に関する情報をお知らせするために、お客様登録をお願いします。

登録は弊社ホームページにて可能です。

下記URLにアクセスして登録を行ってください。

<http://pioneer.jp/support/members/>

なお、登録時に保証書に記載されている内容が必要になりますので、保証書をお手元にご用意ください。

弊社からの本製品の安全に関する重要なお知らせは、お客様登録をしていただいたお客様にいたします。必ず登録をしていただきますようお願いいたします。

MVH-580

Bluetooth/USB/ チューナーメインユニット

MVH-380

USB/ チューナーメインユニット

取扱説明書

目次 5 ページ

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

USB機器を聞く

ラジオを聞く

iPodを聞く

BT AUDIOを聞く

Bluetooth機器との接続

携帯電話を使う

音を調節する

初期設定

システム設定

便利な機能

取り付けの準備



接続・取り付けと動作確認

付録




安全上のご注意 (安全にお使いいただくために必ずお守りください)

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 警告	「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。
 注意	「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 注意 (警告を含む) しなければならない内容です。	 必ず行っていただく強制の内容です。
 禁止 (やってはいけないこと) の内容です。	

AU-001-001

接続・取り付け

警告



禁止

本機は、DC12V \ominus アース車専用です24V車で使用しないでください。火災や故障の原因となります。

エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けと配線をしないエアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してください。エアバッグが誤動作し、死亡事故の原因となります。

前方視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には絶対に取り付けない

交通事故やケガの原因となります。

電源コードの被覆を切って、ほかの機器の電源を取らない

電源コードの電流量がオーバーすると、火災や感電、故障の原因となります。

取り付けには保安部品 (ステアリング、ブレーキ、タンクなど) のボルトやナットは絶対に使用しない
これらを使用すると、制動不能や発火、交通事故の原因となります。

警告



禁止

アンテナは、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない

視界不良やアンテナがはがれて、事故の原因となります。



強制

取付・配線、取付場所の変更は、安全のため必ず販売店に依頼する

取付・配線や取り外しには、専門技術と経験が必要です。誤った取り付けや配線、取り外しをした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。

作業前はバッテリーの \ominus 端子を外す
 \oplus と \ominus 経路のショートにより、感電やケガの原因となります。

作業前に、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認する

車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類・タンク・電気配線などに干渉・接触しないように注意してください。また、加工部のサビ止めや浸水防止の処置を行ってください。



警告



強制

必ず付属の部品を使用し、確実に固定する

付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れて運転の妨げとなり、事故やケガの原因となります。

説明書に従って接続・取り付けする
説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コードの被覆がない部分はテープなどで絶縁する

ショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないよう配線する

断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

コード類は運転操作の妨げとならないように固定する

ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故の原因となります。

取り付けと配線が終わったら、電装品が元通り正常に動作するか確認する

正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

ねじなどの小物部品は、乳幼児の手の届かないところに保管する

誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。



注意



禁止

コード類の配線は、車体の高温部に接触させない

火災や感電の原因となることがあります。

製品同梱の電源リード線は、バッテリーに直接接続しない

火災や感電の原因となることがあります。電流が不足して、バッテリーから直接電源を取る場合は、専用の配線キットを使用してください。

分岐配線をしない

ケーブルが加熱して、火災・感電の原因となることがあります。

雨が吹き込む所や水や結露、ほこり、油煙などが混入するところには取り付けない

発煙や発火、故障の原因となることがあります。

コードが金属部に触れないように配線する

金属部に接触するとコードが破損して、火災や感電、故障の原因となることがあります。

アンテナやカメラは車幅や車の前後からはみ出さない場所に取り付ける
歩行者などに接触して、思わぬ事故の原因となることがあります。

アンテナコード等を車内に引き込む際は、雨水の浸入に注意する

雨水が車内に浸入すると、火災や感電の原因となることがあります。



強制

使用方法



注意



禁止

直射日光やヒーターの熱風が直接当たる場所に取り付けない

内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

アンテナやモニターを不安定なところに取り付けない

落下などの原因となることがあります。

通風口や放熱板をふさがない

内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

コード類は絶対に途中で切断しない

コード類にはヒューズがついている場合があるため、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。



警告



禁止

運転者は走行中に操作をしない

前方不注意となり交通事故の原因となります。必ず安全な場所に停車してから操作してください。

メディア挿入口に手や指、異物を入れない

ケガや感電、火災や故障の原因となります。

液体で濡らさない

発煙・発火・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

リモコンなどを放置しない

停車した時やカーブを曲がるときに、リモコンなどが足もとに転がり、ブレーキペダルなどの下に入り込むと運転の妨げになり、交通事故の原因となります。

警告



**画面が映らない、音が出ない、音声
が割れる、歪むなどの異常・故障
状態で使用しない**

思わぬ事故や火災、感電の原因となります。



**雷が鳴り出したら、アンテナコー
ドや本機に触れない**

落雷による感電の危険性があります。



分解や改造をしない

交通事故や火災、感電の原因となります。



**ヒューズを交換するときは、必ず
規定容量（アンペア）のヒューズを
使用する**

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。



本機は車載用以外で使用しない

発煙や発火、感電やケガの原因となることがあります。



アンプの放熱部に手を触れない

やけどの原因となることがあります。



**音量は、車外の音が聞こえる程度
で使用する**

車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となることがあります。



**モニターの収納や角度調整時に手
や指を挟まれないように注意する**

ケガの原因となることがあります。

指のケガに
注意

電池は正しく使う

警告



**事故防止のため、電池は幼児の手
の届かない場所に保管する**

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師の治療を受けてください。

**電池の極性（ \oplus 、 \ominus ）に注意し、表
示通りに入れる**

電池の極性を間違えると、破裂、液漏れなどにより、ケガや周囲を汚染する原因となることがあります。

警告



電池の液漏れが発生した場合は

皮膚や衣服に付着した時は、きれいな水で洗い流してください。目に入った時は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師にご相談ください。

注意



**電池をショートさせたり、分解・加熱
をしたり、火や水の中に入れない**
電池の破裂や液漏れにより、火災やケガの原因となることがあります。

乾電池は充電しない

電池の破裂により、ケガの原因となることがあります。

**指定以外の電池の使用や、新しい電池
と古い電池を混ぜて使用しない**

電池の破裂、液漏れにより、ケガや周囲を汚染する原因となることがあります。



使いきった電池はすぐに交換する
液漏れにより、周囲を汚染する原因となることがあります。

強制

**リモコンは、直射日光・高温・多
湿の場所を避けて保管する**

ケースの変形、内部電池の破裂や液漏れの原因となることがあります。

異常時の問い合わせ

警告



**万一異常が起きた場合は、直ちに
使用を中止し、必ず販売店かサー
ビス相談窓口にご相談する**

強制

そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

目次

安全のために必ずお守りください

安全上のご注意 2

はじめに

USB機器の接続	8
iPodの接続	8
バッテリー上がりを防ぐために	8
初めて本体を使用する際の設定	8
リモコンの準備 (MVH-580のみ)	9
フロントパネルの取り外しかた／ 取り付けかた	10
各部のなまえ	11

ここだけ読めばすぐ使えます

基本的な操作	14
電源 ON・OFF	
ソース切り換え	
音量調節	
ラジオのふだんの操作	14
バンドを選ぶ	
放送局を選ぶ	
USB機器のふだんの操作	15
USB機器の曲を再生する	
フォルダーを選ぶ 曲を選ぶ	
早送り・早戻し	
iPodのふだんの操作	16
iPodの曲を再生する	
曲を選ぶ 早送り・早戻し	
BT AUDIOのふだんの操作 (MVH-580のみ)	17
Bluetooth 対応機器を再生する	
早送り・早戻し	
よく使う機能をボタンですぐに 操作する	18

USB機器を聞く

音を補正して高音質化する	20
繰り返し再生する	20
違う曲順で再生する	21
再生を一時停止する	21
表示を切り換える	21
タイトルから曲やフォルダーを さがす	22

ラジオを聞く

ファンクションメニューを 切り換える	24
複数の放送局を自動的に登録する	24
左右キーの機能を設定する	24
放送局を1局ずつ登録する	25
登録した放送局を呼び出す	25
表示を切り換える	25

iPodを聞く

聞きたい曲をさがす	26
リスト表示をアルファベットで 検索する	26
表示を切り換える	27
iPodで選曲して本機から 再生する	27
ファンクションメニューを 切り換える	28
オーディオブックの再生速度を 変更する	28
音を補正して高音質化する	29
繰り返し再生する	29
違う曲順で再生する	30
すべての曲をシャッフルしてから 再生する	30
再生中の曲にリンクした曲を 再生する	30
再生を一時停止する	31
音声認識操作で再生する (MVH-580のみ)	31

目次

BT AUDIOを聞く

- BT AUDIOの使用方法について (MVH-580のみ)32
- ファンクションメニューを切り換える (MVH-580のみ) ...32
- BT AUDIOを再生する (MVH-580のみ)32
- BT AUDIOを停止する (MVH-580のみ)33
- 音を補正して高音質化する (MVH-580のみ)33
- 繰り返し再生する (MVH-580のみ)33
- 違う曲順で再生する (MVH-580のみ)34
- 再生を一時停止する (MVH-580のみ)34
- 表示を切り換える (MVH-580のみ)34
- 音声認識操作で再生する (MVH-580のみ)35

Bluetooth機器との接続

- 本機とBluetooth機器の接続 (MVH-580のみ)36
- Bluetooth接続メニューを切り換える (MVH-580のみ) ...36
- 接続するBluetooth機器を切り換える (MVH-580のみ) ...36
- 登録済みのBluetooth機器を削除する (MVH-580のみ)37
- Bluetooth機器を登録する (MVH-580のみ)37
- 自動接続を設定する (MVH-580のみ)38
- Bluetooth機器からの検出状態を設定する (MVH-580のみ)38
- 本機のパスコードを変更する (MVH-580のみ)39
- 本機のBluetooth機器情報を確認する (MVH-580のみ)39

携帯電話を使う

- 本機を使った携帯電話の使用方法について (MVH-580のみ)40
- 電話に出る・電話を切る (MVH-580のみ)40
- 着信を拒否する (MVH-580のみ)40
- PHONEメニューを切り換える (MVH-580のみ)41
- 履歴から電話をかける (MVH-580のみ)41
- プリセット番号を選んで電話をかける (MVH-580のみ)42
- プリセットボタンで電話をかける (MVH-580のみ)42
- 電話機能を設定する (MVH-580のみ)43

音を調節する

- オーディオ調節メニューを切り換える44
- 前後の音量バランスを調節する44
- 左右の音量バランスを調節する45
- イコライザーカーブを選択する45
- イコライザーカーブを調節する46
- 小さな音量でも聞きやすくする46
- サブウーファースのON / OFFと位相切り換え47
- サブウーファースのカットオフ周波数選択とレベル調節47
- 低い音を強調する48
- ハイパスフィルターのカットオフ周波数を選択する48
- 各ソースの音量をそろえる49

初期設定

- 初期設定メニューを切り換える50
- リア出力を設定する50
- Bluetoothのソフトウェアを更新する (MVH-580のみ)51

システム設定

- システムメニューを切り換える ……52
- 時計を合わせる ……53
- 時計表示を切り換える ……53
- 外部機器 (AUX) の音声を
聞けるようにする ……53
- BT AUDIOソースをONにする
(MVH-580のみ) ……54
- 登録したBluetooth機器のデータを
消去する (MVH-580のみ) ……54
- Bluetoothのソフトウェアのバージョンを
確認する (MVH-580のみ) ……55

便利な機能

- 瞬時に音を消す (MVH-580のみ) ……56
- 交通情報を受信する ……56
- 時計を表示する ……56
- イルミネーションメニューを
切り換える ……56
- ボタンの色を選ぶ
(MVH-580のみ) ……57
- ボタンとディスプレイの
明るさを調節する ……57

取り付けの準備

- 接続・取り付け部品を確認する ……58
- 取り付けの前に知ってほしいこと ……58
- 接続の前に知ってほしいこと ……59

接続・取り付けと動作確認

- 接続する ……60
- 本体を取り付ける ……65
- 動作を確認する ……66
- ハンズフリー用マイクの
取り付け (MVH-580のみ) ……66

付録

- WMA / MP3 / WAV
ファイルについて ……68
- USB機器について ……69
- USB機器内のフォルダーについて ……70
- iPodについて ……70
- 故障かな?と思ったら ……72
- こんなメッセージが表示されたら ……74
- 保証書とアフターサービス ……76
- 商標・著作権など ……76
- おもな仕様 ……78

USB 機器の接続

対応する USB 機器や接続時のご注意については (➡「USB 機器について」69 ページ、「おまな仕様」78 ページ)。



ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときに USB 機器のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。
- USB 機器を本機に接続する際は、別売の USB ケーブル (例: CD-U51E) を使用してください。USB ケーブルを使わずに直接接続すると、USB 機器が突起物となり危険です。指定の USB ケーブル以外は、使用しないでください。

iPod の接続

本機は、iPod を本機の USB ポートに接続して操作できます。メインユニット側からの操作はもちろん、「コントロールモード」によって iPod 側からの操作が可能です。スムーズな選曲が実現できます。対応する iPod や接続時のご注意については (➡「iPod について」70 ページ)。



メモ

- 本書では便宜上、iPod、iPhone を iPod と表記しています。



ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときに iPod のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。



ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリーは (➡「放送局を 1 局ずつ登録する」25 ページ)、時計調整は (➡「時計を合わせる」53 ページ) を参照して、再設定してください。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

初めて本体を使用する際の設定

本体の取り付け後、初めて電源を立ち上げたときに、セットアップメニューが自動で起動します。

1

本体を取り付けた後に、車のエンジンをかける



SET UP が表示されます。

2 ロータリーコマンドーを回して、YESを選ぶ

メモ

- セットアップメニューで設定しない場合、ロータリーコマンドーを回して、NO を選びます。

ご注意

- NO を選択すると、今後セットアップメニューでの設定はできません。その場合は、システムメニューで設定してください（→「システムメニューを切り換える」52 ページ）。

3 ロータリーコマンドーを押して、セットアップメニューを表示する

4 ロータリーコマンドーを操作して、時計を合わせる

- ① ロータリーコマンドーを回して、時を合わせる
- ② ロータリーコマンドーを押して、分に切り換える
- ③ ロータリーコマンドーを回して、分を合わせる
- ④ ロータリーコマンドーを押して、セットアップ終了確認画面に切り換える
QUIT が表示されます。

5 ロータリーコマンドーを回して、YESに切り換える

メモ

- 設定画面に戻る場合は、NO に切り換えてください。

6 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する

セットアップメニューでの設定が終わります。

ご注意

- 30 秒間何も操作しないと、セットアップメニューは自動的に解除されます。その場合はセットアップメニューでの設定はできなくなります。システムメニューで設定してください（→「システムメニューを切り換える」52 ページ）。

リモコンの準備 (MVH-580 のみ)

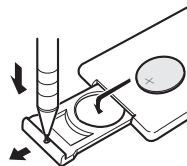
付属のリモコンを使うための準備です。

ご注意

- 初めてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただけます。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池（CR2025）の+側を上にしてセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないことがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 本機に付属の電池は、日光や火気など過度の熱が当たる場所に置かないでください。

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。



フロントパネルの取り扱い上のご注意

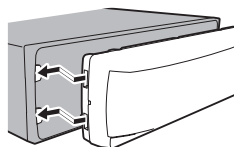
- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部をさわらないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。
- フロントパネルのデタッチを行うときは、フロントパネルから AUX/USB ケーブルを取り外してください。取り外さなかった場合は、機器や車両の備品が破損するおそれがあります。
- 安全のため、停車してからフロントパネルを外してください。

フロントパネルの取り付けかた

1

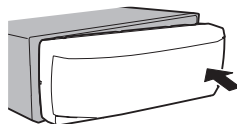
フロントパネルの左側を本体にあわせる

フロントパネルを本体の左側に確実に合わせてください



2

フロントパネルの右側を押し、本体に取り付ける



フロントパネルの取り外しかた

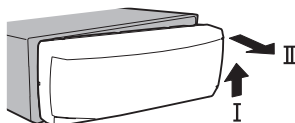
1

デタッチボタンを押して、ロックを解除する

2

フロントパネルの右側を上げ（Ⅰ）、手前に引いて取り外す（Ⅱ）

フロントパネルが外れます



3

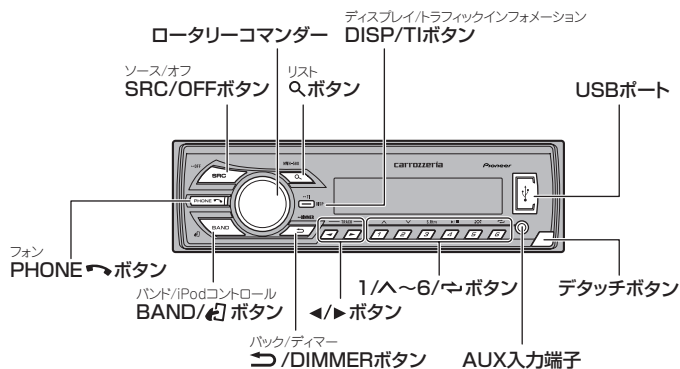
フロントパネルを保管する

取り外したフロントパネルは、ケースなどに入れて保管してください

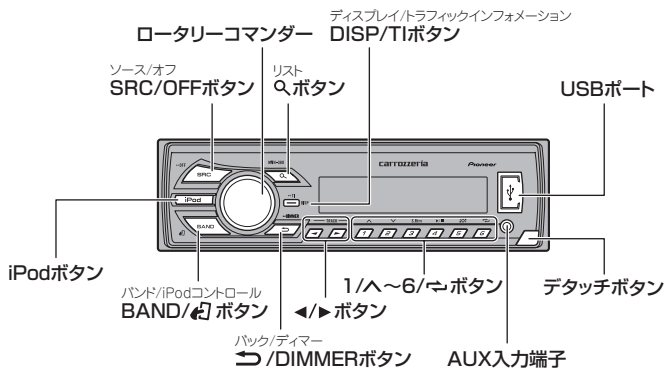
各部のなまえ

本体

MVH-580



MVH-380



ディスプレイ

メイン表示部
 ソースやメディア・圧縮フォーマットなどによって、異なる情報を表示します。
 ラジオ：バンドと周波数
 WMA/MP3/WAV：トラック番号と再生経過時間
 各種メニュー：各種の設定内容
 などを表示します。



サブ表示部
 再生音と連動するレベルメーターを表示します。



インジケータ表示部
 再生状態などを表示します。

🔍	リストを表示しているときに点灯します。	⌘	ランダム再生時に点灯します。 iPodでシャッフルプレイまたは全曲シャッフルをしているときに点灯します。
🔊	iPodから操作できるときに点灯します。		
📶	サウンドレトリバーの設定がONのときに点灯します。	📞	自動着信設定がONのときに点灯します。(MVH-580のみ)
🔄	リピート再生時に点灯します。	📄	メニュー表示で下位階層があるときに点灯します。
		📶	Bluetooth機器接続時に点灯します。(MVH-580のみ)

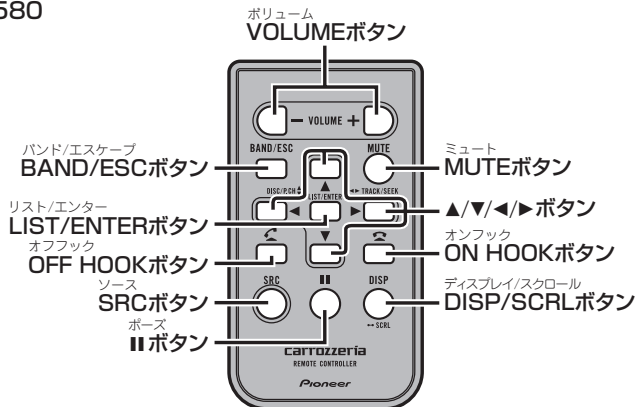
リモコンについて

MVH-580 にはリモコンが付属し、リモコンで、本機を操作できます。本体と同じなまへのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。

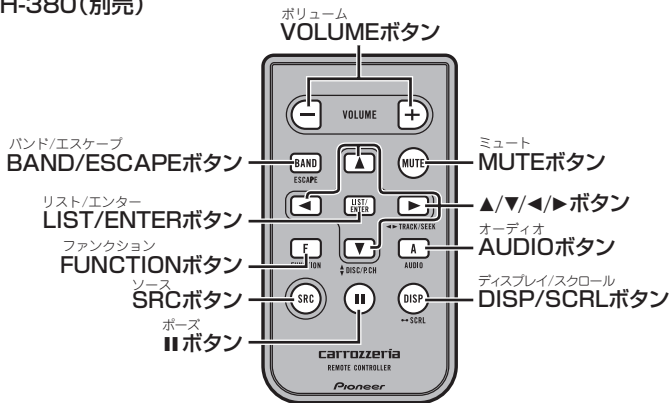
MVH-380 は別売のリモコン「CD-R500」で、本機を操作できます。

別売のリモコンの取り扱いについては、リモコンの説明書をお読みください。

MVH-580



MVH-380 (別売)



メモ

- ▲/▼ ボタンで、各種メニューのリストを選択できます。▶ ボタンで項目を決定、◀ ボタンで前の画面に戻ります。

基本的な操作

電源 ON・OFF ソース切り換え 音量調節

1 SRC/OFFボタンを押して、電源をONにする

本機の電源が ON になります。

2 SRC/OFFボタンを押して、ソースを切り換える

押すごとに次のように切り換わります。



▼ ソースとは

- SRC/OFF ボタンを押すと切り換わる、USB/iPod や TUNER などの音源のことです。

3 音量を調節する

ロータリーコマンドを回す。

大きくする：右に回す

小さくする：左に回す

約 4 秒間、音量が表示されます。

4 SRC/OFFボタンを長く押して、電源をOFFにする

電源が OFF になります。

✎ メモ

- 音量の調節範囲は 0 ~ 62 です。
- USB や iPod を接続したときも、電源が ON になります。
- 次の場合、該当のソースには切り換わりません。
 - ・ 対応する機器を接続していない
 - ・ AUX ソースを OFF にしている (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」53 ページ)
- 工場出荷時は、AUX が ON に設定されています。使用しない場合は OFF に設定してください (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」53 ページ)。

- 本機のアンテナコントロール線の接続状態によっては、ラジオが受信できない場合があります (⇒60 ページ)。また、オートアンテナ車のアンテナを下げる場合は、電源 OFF にしてください。

- 時計を表示させている場合、電源を OFF にしても時計は表示されます。

ラジオのふだんの操作

バンドを選ぶ 放送局を選ぶ

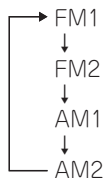
画面表示例



1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERに切り換える

2 BAND/◀▶ ボタンを押して、バンドを選ぶ

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 受信状態の良い放送局を自動でさがして登録する

⇒「複数の放送局を自動的に登録する」24 ページ

4 ◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押して、プリセット番号順に受信する

⇒「登録した放送局を呼び出す」25 ページ

次のプリセットチャンネルを選ぶ
： ▶ ボタンを押す
前のプリセットチャンネルを選ぶ
： ◀ ボタンを押す



ご注意

- 左右キーを押したときの機能が、工場出荷時はMAN（手動選局）に設定されています。PCH（登録した放送局の選択）に切り換えてください（⇒「左右キーの機能を設定する」24ページ）。



メモ

- 放送局を手動で選局する場合は、左右キーを押したときの機能を、MAN（手動選局）に設定します（⇒「左右キーの機能を設定する」24ページ）。手動選局に設定後は、以下のようにボタンを押して手動選局を行います。
 - ◀ または ▶ ボタンを押す：周波数を順番に送る
 - ◀ または ▶ ボタンを長く押して離す：受信可能な放送局が見つかるまで自動で周波数を送る
- ◀ または ▶ ボタンを押している間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。

5 ほかのソースに切り換える。または、電源をOFFにする

ラジオの受信が終わります。



メモ

- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

USB 機器のふだんの操作

USB 機器の曲を再生する フォルダーを選ぶ
曲を選ぶ 早送り・早戻し

画面表示例



1 USBポートのカバーを開けて、USB機器を接続する。または、SRC/OFFボタンを押して、ソースをUSBに切り換える

再生が始まります。

2

1 / ^ ボタンまたは 2 / v ボタンを押して、フォルダーを選ぶ

次のフォルダーを選ぶ：1 / ^ を押す
前のフォルダーを選ぶ：2 / v を押す

3

◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ：▶ ボタンを押す
前の曲を選ぶ：◀ ボタンを押す

4

◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押して、早送り／早戻しする

早送り：▶ ボタンを長く押す
早戻し：◀ ボタンを長く押す

5

USB機器を外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をOFFにする

USBの再生が終わります。



ご注意


- USB 機器を本機に接続する際は、別売のUSB ケーブル（例：CD-U51E）を使用してください。USB ケーブルを使わずに直接接続すると、USB 機器が突起物となり危険です。指定のUSB ケーブル以外は、使用しないでください。
- 対応するUSB 機器をご使用ください。ただし、対応するUSB 機器でも正しく動作しない場合があります（⇒「USB 機器について」J69ページ）。
- USB 機器を使用するときのご注意については、⇒「USB 機器について」69ページ。
- 早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。



メモ

- USB 機器を接続したまま、電源をOFFにしたりほかのソースに切り換えることができません。
- USB 機器は、いつでも本機から取り外すことができます。
- BAND / を長く押すと、フォルダー01（ROOT）に戻ります。ただし、フォルダー01（ROOT）にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- USB 機器にバッテリー充電機能がある場合、エンジンスイッチがACCまたはONになっているときにUSB 機器のバッテリーが充電されます。

次のページに続く

- USB ソースでは、接続した USB 機器の情報を読みとる際、FORMAT READ と表示されます。USB 機器の情報を読みとるため、再生までに時間がかかります。
- 接続する USB 機器が複数のマストレージクラスで構成されている場合、本機では最大 32 個まで認識可能です。認識したマストレージクラスについては、BAND/  ボタンを押して切り換えることができます。

iPod のふだんの操作

iPod の曲を再生する 曲を選ぶ 早送り・早戻し

iPod 用 USB 変換ケーブルを使って iPod を本機に接続し、操作できます。

画面表示例



1 USBポートのカバーを開けて、iPodを接続する。または、SRC/OFFボタンを押して、ソースをiPodに切り換える

再生が始まります。

2 1/∧ボタンまたは2/∨ボタンを押して、アルバムを選ぶ

次のアルバムを選ぶ：1/ ∧ボタンを押す
前のアルバムを選ぶ：2/ ∨ボタンを押す

3 ◀ボタンまたは▶ボタンを押して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ：▶ ボタンを押す
前の曲を選ぶ：◀ ボタンを押す

4 ◀ボタンまたは▶ボタンを押し続けて、早送り／早戻しする

早送り：▶ ボタンを長く押す
早戻し：◀ ボタンを長く押す

5 iPodを外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をOFFにする

iPod の再生が終わります。

ご注意

- iPhone/iPod touch 以外では、再生範囲が 1 曲リピートのときは、◀ または ▶ ボタンを押して曲を選ぶことはできません。
- iPod には iPod 用 USB 変換ケーブルのみを接続してください。iPod 用 USB 変換ケーブル以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
- 本機に接続する前に、iPod からヘッドホンを外してください。
- iPod を使用するときのご注意や iPod の設定については → 「iPod について」70 ページ。

メモ

- 再生しているオーディオブック、Podcast やビデオファイル（コントロールモード中）などにチャプターがある場合、◀ または ▶ ボタンを押して、チャプターが選べます。
・次のチャプターを選ぶ：▶ ボタンを押す
・前のチャプターを選ぶ：◀ ボタンを押す
- エンジンスイッチが ACC または ON になっている場合、iPod のバッテリーが充電されます。
- コントロールモードを AUDIO に設定した場合、iPod は本機に接続されている間、iPod 自身で電源を OFF することはできません（→ 「iPod で選曲して本機から再生する」27 ページ）。

BT AUDIO のふだんの操作 (MVH-580 のみ)

Bluetooth 対応機器を再生する 早送り・早戻し

Bluetooth 対応機器を本機のソースとして使用できます。

画面表示例



メモ

- Bluetooth 対応機器を本機の BT AUDIO ソースとして初めて使用する場合、あらかじめ Bluetooth 対応機器を本機に登録しておく必要があります (→ 「Bluetooth 機器を登録する」 37 ページ)。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをBT AUDIOに切り換える

2 ◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ： ▶ ボタンを押す
前の曲を選ぶ： ◀ ボタンを押す

3 ◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押し続けて、早送り／早戻しする

早送り： ▶ ボタンを長く押す
早戻し： ◀ ボタンを長く押す

4 ほかのソースに切り換える。または、電源をOFFにする

再生が終わります。

よく使う機能をボタンで すぐに操作する

ここだけ読めばすぐ使えます

PHONE ↶ ボタン (MVH-580)

各ソースのときに押すと PHONE メニューを表示し (⇒ 41 ページ)、各ソースのときに長く押すと Bluetooth 接続メニューを表示します (⇒ 36 ページ)。
ハンズフリー着信時や通話時の操作で使用します (⇒ 40 ページ)。

iPod ボタン (MVH-380)

iPod を接続しているときに押すと、iPod ソースに切り換わります。
iPod ソースのときに押すと、コントロールモードの設定が切り換わります (⇒ 27 ページ)。

BAND/ ↶ ボタン

メニューや曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧 (トラック/ファイル/フォルダーリスト) が表示されているときに押すと、ふだんの再生画面に戻ります。

TUNER ソースのときに押すと、バンドが切り換わります (⇒ 25 ページ)。

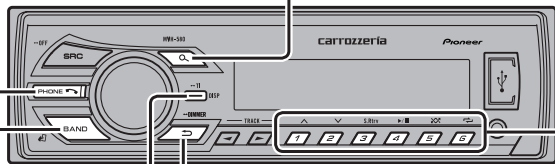
iPod ソースのときに押すと、コントロールモードの設定が切り換わります (⇒ 27 ページ)。

BT AUDIO ソースのふだんの再生画面で押すと、BT AUDIO が再生されます (⇒ 32 ページ)。

Q ボタン

押すと、ソースごとに異なるリストが表示されます。

- USB ⇒ 22 ページ
- iPod ⇒ 26 ページ



※ イラストは MVH-580 を示します。

↶ / DIMMER ボタン

メニュー操作中などは、ひとつ前の画面に戻ります。
ふだんの再生画面のときや、電源 OFF の時計表示中に長く押すとディスプレイが暗くなります。再度長く押すと、通常の明るさに戻ります。

DISP/TI ボタン

各ソースのときに、押すたびに、ディスプレイの表示が切り換わります。

長く押すと、交通情報を受信します。(⇒ 56 ページ)

電源が OFF のときに押すと、ディスプレイに時計が表示されます (⇒ 56 ページ)。

1/ (アップ) ボタン

USB/iPod ソースのときに押すと、次のフォルダーやアルバムに切り換わります (➡ 15、16 ページ)。

電話番号をプリセット登録し、PHONE メニューで押すと、相手先を呼び出すことができます (➡「プリセットボタンで電話をかける (MVH-580のみ)」42 ページ)。

2/ (ダウン) ボタン

USB/iPod ソースのときに押すと、前のフォルダーやアルバムに切り換わります (➡ 15、16 ページ)。

電話番号をプリセット登録し、PHONE メニューで押すと、相手先を呼び出すことができます (➡「プリセットボタンで電話をかける (MVH-580のみ)」42 ページ)。

3/ (S.Rtrv) ボタン

USB/iPod、BT AUDIO ソースのときに押すと、アドバンスド・サウンドレトリバーの設定を切り換えることができます (➡ 20、29、33 ページ)。

電話番号をプリセット登録し、PHONE メニューで押すと、相手先を呼び出すことができます (➡「プリセットボタンで電話をかける (MVH-580のみ)」42 ページ)。

4/ / (再生 / 一時停止) ボタン

USB/iPod ソースのときに押すと、再生を一時停止できます (➡ 21、31 ページ)。

電話番号をプリセット登録し、PHONE メニューで押すと、相手先を呼び出すことができます (➡「プリセットボタンで電話をかける (MVH-580のみ)」42 ページ)。

5/ (ランダム) ボタン

USB、BT AUDIO ソースのときに押すと、ランダムプレイを ON / OFF できます (➡ 21、34 ページ)。

iPod ソースのときに押すと、シャッフル再生の切り換えができ、長く押すと全曲シャッフル再生します (➡ 30 ページ)。

電話番号をプリセット登録し、PHONE メニューで押すと、相手先を呼び出すことができます (➡「プリセットボタンで電話をかける (MVH-580のみ)」42 ページ)。

6/ (リピート) ボタン

USB/iPod、BT AUDIO ソースのときに押すと、再生範囲の設定を切り換えることができます (➡ 20、29、33 ページ)。

電話番号をプリセット登録し、PHONE メニューで押すと、相手先を呼び出すことができます (➡「プリセットボタンで電話をかける (MVH-580のみ)」42 ページ)。

音を補正して高音質化する

S.RTRV

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。

アドバンスド・サウンドレトリバーとは

- デジタル信号処理を用いて圧縮音楽の音質を補正する機能です。失われた音を補間して、高音質再生を実現します。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをUSBにする

→ 「基本的な操作」 14 ページ

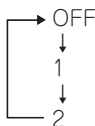
2 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、S.RTRVを表示する

5 ロータリーコマンダーを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



メモ

- 1は低圧縮率の音声、2は高圧縮率の音声に適しています。

6 BAND/↶ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- アドバンスド・サウンドレトリバーは、3/S.Rtrvでも切り換えられます (→ 「よく使う機能をボタンですぐに操作する」 18 ページ)。

繰り返し再生する

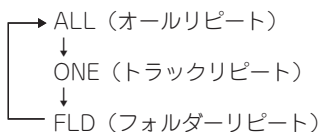
曲を繰り返し (リピート) 再生できます。繰り返しの範囲は、今聞いている曲やフォルダー全体などから選べます。

1 SRC/OFFを押して、ソースをUSBにする

→ 「基本的な操作」 14 ページ

2 6/↶ボタンを押して、再生範囲を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



オールリピート：

すべての曲を繰り返し再生します。

トラックリピート：

いま聞いている曲を繰り返し再生します。

フォルダーリピート：

いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

3 BAND/↶ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- 選んだ再生範囲は、ランダムプレイの再生範囲に影響します。
- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲だけを再生します。サブフォルダー内の曲は再生しません。

違う曲順で再生する

曲を順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 SRC/OFFを押して、ソースをUSBにする

➔ 「基本的な操作」 14 ページ

2 ランダムプレイする範囲を選んでおく

ランダムプレイは、REPEAT で選んだ範囲で行われます（➔ 「繰り返し再生する」 20 ページ）。

3 5/🔀 ボタンを押して、ランダムプレイ設定をONにする

次の曲から、ランダムに再生されます。もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/🔀 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定を ON にすると、圧縮オーディオの再生範囲がフォルダーリピートに切り換わってランダムプレイが行われます。
- ランダムプレイ中に曲を変更する場合は、▶ ボタンを押して切り換えてください。◀ ボタンを押すと、再生中の曲の先頭に戻ります。

再生を一時停止する

曲の再生を一時停止できます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをUSB（iPodの場合はiPod、BT AUDIOの場合はBT AUDIO）にする

➔ 「基本的な操作」 14 ページ

2 4/▶/⏸ ボタンを押して、再生を一時停止する

もう一度押すと、再生を再開します。

3 BAND/🔀 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- リモコンの⏸ ボタンでも、同様の操作ができます。

表示を切り換える

圧縮オーディオ再生中に、トラックタイトルやフォルダー名、アーティスト名などを表示することができます。

🔍 ご注意

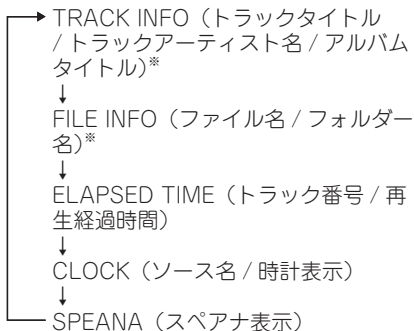
- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

1 SRC/OFFを押して、ソースをUSBにする

➔ 「基本的な操作」 14 ページ

2 DISP/TIボタンを押して、表示を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



※ 自動で表示が切り換わります。



ご注意

- タイトル名などが収録されていない場合、表示を切り換えると、「NO TITLE」や「NO NAME」などが表示されます。
- ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- MP3 ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- WMA / MP3 / WAV 以外では、タイトルは表示しません。
- Windows Media Player 11 を使用して WAV ファイルをエンコードしたときに、WAV ファイルのファイル名などを表示することができます。

タイトルから曲やフォルダーをさがす

圧縮オーディオの再生中に、曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧（ファイル／フォルダーリスト）を見ながら、聞きたい曲、ファイル、フォルダーを選べます。



ご注意

- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをUSBにする

→ 「基本的な操作」14 ページ

2 検索ボタンを押して、ファイル／フォルダーリストを表示する

3 ロータリーコマンドを回して、曲名、ファイル名、フォルダー名を切り換える

次の曲／ファイル／フォルダーを選ぶ

：右に回す

前の曲／ファイル／フォルダーを選ぶ

：左に回す

4 フォルダーの表示時に、ロータリーコマンドを押して、そのフォルダー内のフォルダー／ファイルを表示する



メモ

- フォルダーが表示されているときにロータリーコマンドを長く押し続けると、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。

5 曲／ファイルの表示時に、ロータリーコマンドを押して、再生する



メモ

- 再生は、曲／ファイルの表示時に ▶ ボタンを押すことでも可能です。
- 前のリスト（1つ上の階層のフォルダー）に戻るには、⏪/DIMMER ボタンを押します。
- 最上位の階層に戻るには、⏪/DIMMER ボタンを長く押します。
- リスト表示中にふだんの再生画面に戻るには、BAND/⏪ ボタンまたは Q ボタンを押します。
- ファイル／フォルダーリストは、必ず先頭・ROOT から表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、「NO FILE」と表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンドーを押しても再生されません。
- ファイル／フォルダーリストは、30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ファンクションメニューを切り換える

「複数の放送局を自動的に登録する」などの機能は、ファンクションメニューで選んで操作します。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」14 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンドーを回して、機能を切り換える

BSM（「複数の放送局を自動的に登録する」→このページ）

↓
SEEK（「左右キーの機能を設定する」→このページ）

4 ロータリーコマンドーを押して、ファンクションメニューを表示する



メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/↻ボタンを押します（30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります）。

複数の放送局を自動的に登録する

BSM

BSM 機能を使うと、受信状態の良い放送局を自動でさがして登録できます。登録された放送局をかんたんに受信できます。

BSM とは

- BSM は、「Best Stations Memory（ベストステーションズメモリー）」の略です。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」14 ページ

2 BAND/↻ ボタンを押して、登録するバンドを選ぶ

3 ロータリーコマンドーを操作して、BSMにする

→「ファンクションメニューを切り換える」このページ

4 ロータリーコマンドーを押して、BSMによる登録を始める

登録が完了すると、1の番号に登録された局の放送を受信します。



メモ

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます。
- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。

左右キーの機能を設定する

SEEK

◀ ボタン、▶ ボタンを押したときの機能の切り換えができます。

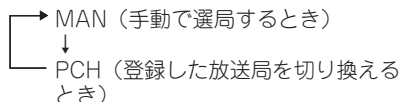
1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」14 ページ

2 ロータリーコマンドーを操作して、SEEKにする

→「ファンクションメニューを切り換える」このページ

3 ローターコマンドを押して、設定を切り換える



放送局を1局ずつ登録する

1/∧～6/↶のボタンを使って、よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます(プリセットメモリー)。登録した放送局をかたんに受信できます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」14ページ

2 BAND/↷ボタンを押して、登録するバンドを選ぶ

3 ◀ボタンまたは▶ボタンを押して、登録する放送局を選ぶ

📌 ご注意

- 左右キーを押したときの機能がPCH(登録した放送局の選択)に設定されているときは、MAN(手動選局)に切り換える必要があります(→「左右キーの機能を設定する」24ページ)。

4 1/∧～6/↶ボタンの1つを長く押して放送局を登録する

登録処理中にプリセット番号が点滅します。登録が完了すると、プリセット番号の点滅が終わり、その局の放送を受信します。

登録した放送局を呼び出す

BSMやプリセットメモリーで登録した放送局をかたんに受信できます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」14ページ

2 BAND/↷ボタンを押して、バンドを選ぶ

3 1/∧～6/↶ボタンを押して、登録した放送局を受信する

✎ メモ

- ◀または▶ボタンを押して、順番に受信することもできます(→「ラジオのふだんの操作」14ページ)。

ラジオを聞く

表示を切り換える

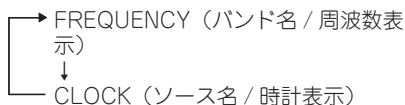
お好みの画面表示に切り換えることができます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」14ページ

2 DISP/ТИボタンを押して、表示を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



聞きたい曲をさがす

ジャンル、アーティスト、アルバムなどの項目から、お好みの曲を選んで再生できます。



ご注意

- iPod に保存してあるファイルの数によっては、項目の表示に時間がかかる場合があります。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをiPodにする

➔ 「基本的な操作」14 ページ



メモ

- iPod ソースは iPod ボタンを押して切り換えることもできます。(MVH-380 のみ)

2 Qボタンを押して、ブラウズモードにする

3 ロータリーコマンドを回して選みたい項目を表示する

次の項目が表示できます。



4 ロータリーコマンドを押して、項目を選ぶ

5

手順3、4の操作を繰り返して、項目を絞り込む

6

ロータリーコマンドを回して、聞きたい曲を表示する

7

ロータリーコマンドを押して、再生する



メモ

- ▶ ボタンを押して、項目を選んだり曲を再生したりすることもできます。
- 前のリスト（1つ上の階層のフォルダー）に戻るには、⏪/DIMMER ボタンを押します。この操作は、◀ ボタンを押すことでも可能です。
- 最上位の階層に戻るには、⏪/DIMMER ボタンを長く押します。
- 再生したい項目を表示しているときにロータリーコマンドを長く押すと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。▶ ボタンを長く押すことでも可能です。
- リスト表示中にふだんの再生画面に戻るには、BAND/🎧 ボタンを押します（30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります）。

リスト表示をアルファベットで検索する



ご注意

- アルファベット順に表示されるリストのときに操作できます。
- 頭文字が、半角のアルファベット、数字、および記号で記録されているものが対象です。

1

ロータリーコマンドを操作して、選みたい項目のリストを表示する

2

Qボタンを押して、アルファベットの入力画面を表示する

「SEARCH : A」と表示されます。



メモ

- ロータリーコマンドを素早く2回連続で回して、入力画面を表示させることもできます。

3 ロータリーコマンドを回して、リストの先頭に表示したいアルファベットを選ぶ

4 ロータリーコマンドを押して、選んだアルファベットから始まるリストを表示する

 **メモ**

●対象のアルファベットが無い場合は、「NOT FOUND」と表示されます。

表示を切り換える

iPod に記録されている曲名やアーティスト名、アルバムタイトルなどを表示することができます。

 **ご注意**

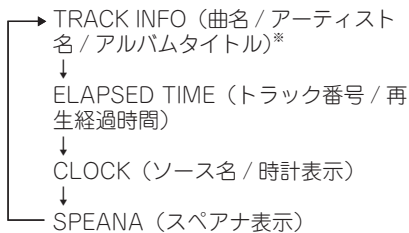
●本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをiPodにする

→ 「基本的な操作」 14 ページ

2 DISP/TIボタンを押して、表示を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



※ 自動で表示が切り換わります。

 **メモ**

●本機で表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。

iPod で選曲して本機から再生する

選曲などの操作を、本機と iPod のどちらでするか切り換えられます (コントロールモード)。iPod に設定すると、iPod の画面で操作できます。日本語のタイトルも、そのまま見て曲を選ぶるので便利です。


APP に設定すると、iPod アプリケーションからの音声を本機で再生できます。

 **ご注意**

- 以下の iPod では本機能は使用できません。
 - ー 第 5 世代 iPod
 - ー 第 1 世代 iPod nano最新の情報については、カロッツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。
- APP モードに対応しているのは以下の iPod です。
 - ー 第 4 世代 iPod touch
 - ー 第 3 世代 iPod touch
 - ー 第 2 世代 iPod touch
 - ー 第 1 世代 iPod touch
 - ー iPhone 4S
 - ー iPhone 4
 - ー iPhone 3GS
 - ー iPhone 3G
 - ー iPhone

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをiPodにする

→ 「基本的な操作」 14 ページ

2 BAND/ ボタンを押して、コントロールモードを切り換える

押すごとに iPod、APP、AUDIO に切り換わります。

iPod :
iPod で選曲などの操作をします。

APP :
iPod で選曲などの操作をします。
APP モードに対応している iPod で、iPod アプリケーションからの音声を再生します。

AUDIO :
本機で選曲などの操作をします。

次のページに続く

**ご注意**

- 音量は本機からしか調節できません。
- iPod/APPに設定すると、再生は停止されます。iPodを操作して、再生してください。

**メモ**

- コントロールモードを iPod/APP に設定していても、本機から次の操作ができます。
 - 一時停止
 - 選曲
 - 早送り/早戻し
 - S.RTRV 機能の設定 (→「ファンクションメニューを切り換える」このページ)
- コントロールモードは iPod ボタンを押して切り換えることもできます (MVH-380のみ)。

ファンクションメニューを切り換える

「オーディオブックの再生速度を変更する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをiPodにする

→「基本的な操作」14 ページ

2 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、ファンクションメニューを表示する

5 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。

AUDIO BOOK (→「オーディオブックの再生速度を変更する」28 ページ)

↓
S.RTRV (→「音を補正して高音質化する」29 ページ)

**メモ**

- コントロールモードを iPod/APP に設定しているときは、S.RTRV のみ選択できます。
- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/↻ ボタンを押します (30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

オーディオブックの再生速度を変更する

AUDIO BOOK

オーディオブックの再生速度を変更できます。

1 ロータリーコマンダーを操作して、AUDIO BOOKに切り換える

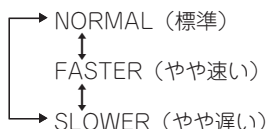
→「ファンクションメニューを切り換える」このページ

2 ロータリーコマンダーを押して、AUDIO BOOKを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンダーを回して、設定を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンダーを押して、設定を決定する

**メモ**

- ロータリーコマンダーを押す前に、ファンクションメニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BAND/↻ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

音を補正して高音質化する

S.RTRV

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。

🔍 アドバンスド・サウンドレトリバーとは

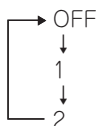
- デジタル信号処理を用いて圧縮音楽の音質を補正する機能です。失われた音を補間して、高音質再生を実現します。

1 ロータリーコマンドーを操作して、S.RTRVに切り換える

➔ 「ファンクションメニューを切り換える」28 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



📝 メモ

- 1 は低圧縮率の音声、2 は高圧縮率の音声に適しています。

3 BAND/🔍 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📝 メモ

- アドバンスド・サウンドレトリバーは、3/S.Rtrv ボタンでも切り換えられます (➔ 「よく使う機能をボタンですぐに操作する」18 ページ)。

繰り返し再生する

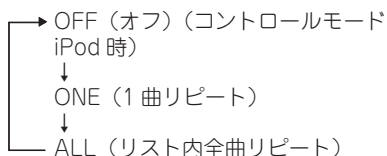
曲を繰り返し (リピート) 再生できます。繰り返しの範囲は、今聞いている曲やリスト内全曲などから選べます。

1 SRC/OFF ボタンを押して、ソースを iPod にする

➔ 「基本的な操作」14 ページ

2 6/🔍 ボタンを押して、再生範囲を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



1 曲リピート：
いま聞いている曲を繰り返し再生します。

リスト内全曲リピート：
いま聞いているリスト内のすべての曲を繰り返し再生します。

3 BAND/🔍 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

違う曲順で再生する

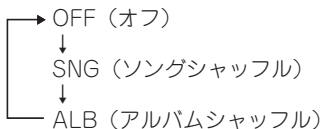
曲やアルバムを順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをiPodにする

→「基本的な操作」14ページ

2 5/SHUFFLEボタンを押して、シャッフルの種類を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 BAND/⏮️ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

すべての曲をシャッフルしてから再生する

iPodのミュージックライブラリ内のすべての曲を順不同（ランダム）に再生できます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをiPodにする

→「基本的な操作」14ページ

2 5/SHUFFLEボタンを長く押して、全曲シャッフルする

再生が始まり、ふだんの再生画面に戻ります。



メモ

- 全曲シャッフルを解除するには、SHUFFLEでOFFを選びます（→「違う曲順で再生する」このページ）。

再生中の曲にリンクした曲を再生する

再生中の曲にリンクしたリストの曲を再生します。現在の曲の再生が終わると、リンクした曲に切り換わります。再生できるのは次のリストにある曲です。

- ・再生中のアーティストのアルバムリスト
- ・再生中のアルバムに収録されている曲のリスト
- ・再生中のジャンルのアルバムリスト



ご注意

- リンクの検索条件に関連したリストがない場合は、「NOT FOUND」と表示されます。
- 曲によっては、切り換わる際に終わりや始まりの音が切れる場合があります。

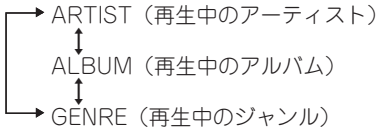
1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをiPodにする

→ 「基本的な操作」 14 ページ

2 検索ボタンを長く押し、LINK PLAYモードに切り換える

3 ロータリーコマンドを回して、リンクのサーチ条件を切り換える

次の順序で切り換わります。



アーティスト：再生中のアーティストの曲
アルバム：再生中のアルバムに収録されている曲
ジャンル：再生中のジャンルの曲

4 ロータリーコマンドを押して、リンクのサーチ条件を選ぶ

現在の曲の再生が終わると、リンクした曲に切り換わります。



ご注意

- リンクプレイ以外の操作を行うと、リンクプレイでの選択結果が解除される場合があります（例：早送り／早戻し）。

5 ロータリーコマンドを操作して、アルバムまたは曲を選ぶ

→ 「聞きたい曲をさがす」 26 ページ

再生を一時停止する

曲の再生を一時停止できます。操作方法は、USBの場合と同じです（→21ページ）。

音声認識操作で再生する（MVH-580のみ）

音声認識機能を搭載した iPod で発話操作をして、本機で再生できます。操作方法は、BT AUDIO の場合と同じです（→35ページ）。

BT AUDIO の使用方法について (MVH-580 のみ)

本機では、Bluetooth 機器を使って、Bluetooth オーディオ機能を使用できます。

メモ

- 初めて本機でご使用の場合は、Bluetooth 機器を本機に登録する必要があります (→ 「Bluetooth 機器を登録する」 37 ページ)。
- BT AUDIO では、以下の Bluetooth プロファイルに対応しています。
 - A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
 - AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) ver. 1.3
- iPod ソースのときには、Bluetooth オーディオ (A2DP) の接続はできません。
- 接続する Bluetooth 機器によっては、操作や動作が異なる場合があります。Bluetooth 機器の説明書も併せてご覧ください。

ファンクションメニューを切り換える (MVH-580 のみ)

ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをBT AUDIOにする

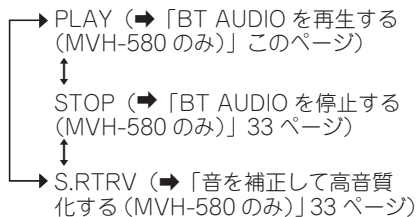
→ 「基本的な操作」 14 ページ

2 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する


3 ロータリーコマンダーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、ファンクションメニューを表示する

5 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える



メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/  ボタンを押します (30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

BT AUDIO を再生する (MVH-580 のみ)

PLAY


1 ロータリーコマンダーを操作して、PLAYに切り換える

→ 「ファンクションメニューを切り換える (MVH-580 のみ)」 このページ

2 ロータリーコマンダーを押す

BT AUDIO の再生が始まります。

メモ

- BT AUDIO のふだんの再生画面で、BAND/  ボタンを押しても、再生が始まります。

BT AUDIO を停止する (MVH-580 のみ)

STOP

1 ロータリーコマンドーを操作して、STOPに切り換える

→「ファンクションメニューを切り換える (MVH-580 のみ)」32 ページ

2 ロータリーコマンドーを押す

BT AUDIO の再生が停止します。

音を補正して高音質化する (MVH-580 のみ)

S.RTRV

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。

アドバンスド・サウンドレトリバーとは

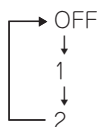
- デジタル信号処理を用いて圧縮音楽の音質を補正する機能です。失われた音を補間して、高音質再生を実現します。

1 ロータリーコマンドーを操作して、S.RTRVに切り換える

→「ファンクションメニューを切り換える (MVH-580 のみ)」32 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



メモ

- 1 は低圧縮率の音声、2 は高圧縮率の音声に適しています。

3 BAND/ 𠃊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- アドバンスド・サウンドレトリバーは、3/S.Rtrv ボタンでも切り換えられます (→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」18 ページ)。

繰り返し再生する (MVH-580 のみ)

曲を繰り返し (リピート) 再生できます。

ご注意

- 接続した Bluetooth 機器により、繰り返し再生ができない場合があります。また、再生範囲が異なる場合があります。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをBT AUDIOにする

→「基本的な操作」14 ページ

2 6/ ⇨ ボタンを押す

もう一度押すと、解除されます。

3 BAND/ 𠃊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

違う曲順で再生する (MVH-580のみ)

曲やアルバムを順不同(ランダム)に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

ご注意

- 接続した Bluetooth 機器により、再生範囲が異なる場合があります。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをBT AUDIOにする

→「基本的な操作」14 ページ

2 5/🔄ボタンを押す

もう一度押すと、解除されます。

3 BAND/🔊ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- ランダムプレイ中に曲を変更する場合は、▶ボタンを押して切り換えてください。◀ボタンを押すと、再生中の曲の先頭に戻ります。

再生を一時停止する (MVH-580のみ)

曲の再生を一時停止できます。操作方法は、USBの場合と同じです(→21 ページ)。

表示を切り換える (MVH-580のみ)

BT AUDIO 再生中に、トラックタイトルやアーティスト名などを表示することができます。

ご注意

- 接続する Bluetooth 機器によっては、表示できない場合があります。
- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをBT AUDIOにする

→「基本的な操作」14 ページ

2 DISP/TIボタンを押して、表示を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



※ 自動で表示が切り換わります。

ご注意

- 接続する Bluetooth 機器やファイルにより、表示が異なる場合があります。

音声認識操作で再生する (MVH-580 のみ)

音声認識機能を搭載した iPod で発話操作をして、本機で再生できます。

音声認識操作について詳しくは、iPod の説明書をお読みください。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをBT AUDIO (iPod の場合はiPod) にする

→ 「基本的な操作」 14 ページ

2 ロータリーコマンドを長く押す

「VOICE CTRL」と表示され、音声認識モードに入ります。



メモ

- 音声認識機能を搭載した iPod が Bluetooth 接続されていないと、音声認識モードに入りません。

3 iPod で音声認識操作をする

再生が始まります



メモ

- 再生の一時停止はできません。

4 BAND/ 冂 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

本機とBluetooth機器の接続 (MVH-580のみ)

携帯電話やオーディオプレーヤーなど、Bluetoothに対応した機器を本機に接続して使用できます。ここでは、本機との接続方法を説明しています。接続する機器側の操作方法については、接続する機器の説明書をご覧ください。

メモ

- Bluetooth 機器の登録は、接続する機器側から本機を検出して簡単に行うことができます。
- 本機は、以下の Bluetooth プロファイルに対応しています。
 - GAP (Generic Access Profile)
 - OPP (Object Push Profile)
 - HFP (Hands Free Profile) ver. 1.5
 - HSP (Head Set Profile)
 - PBAP (Phone Book Access Profile)
 - A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
 - AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) ver. 1.3

Bluetooth 接続メニューを切り換える(MVH-580のみ)

1 PHONE ボタンを長く押して、Bluetooth接続メニューを表示する

2 ロータリーコマンドを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。

- DEVICELIST (⇒「接続する Bluetooth 機器を切り換える (MVH-580のみ)」このページ)
- ↓
- DEL DEVICE (⇒「登録済みの Bluetooth 機器を削除する (MVH-580のみ)」37 ページ)
- ↓
- ADD DEVICE (⇒「Bluetooth 機器を登録する(MVH-580のみ)」37 ページ)
- ↓
- A.CONN (⇒「自動接続を設定する (MVH-580のみ)」38 ページ)
- ↓

VISIBLE (⇒「Bluetooth 機器からの検出状態を設定する (MVH-580のみ)」38 ページ)

↓
PIN CODE (⇒「本機のパスコードを変更する(MVH-580のみ)」39 ページ)

↓
→ DEV.INFO (⇒「本機の Bluetooth 機器情報を確認する (MVH-580のみ)」39 ページ)

接続する Bluetooth 機器を切り換える (MVH-580のみ)

DEVICELIST

Bluetooth 機器を複数台登録している場合、登録済みの Bluetooth 機器をリスト表示して、接続先を切り換えることができます。

1 PHONE ボタンとロータリーコマンドを操作して、DEVICELISTに切り換える

⇒「Bluetooth 接続メニューを切り換える (MVH-580のみ)」このページ

2 ロータリーコマンドを押して、DEVICELISTを選ぶ

登録済みの Bluetooth 機器が表示されます。

3 ロータリーコマンドを回して、接続する Bluetooth 機器を選ぶ

メモ

- ロータリーコマンドを長く押すと、デバイス名 (機器名称) とデバイスアドレスを切り換えることができます。

4 ロータリーコマンドを押して、接続先を切り換える

切り換わった Bluetooth 機器に、*が表示されます。

5 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

登録済みの Bluetooth 機器を削除する(MVH-580のみ)

DEL DEVICE

登録済みの Bluetooth 機器を削除できます。

ご注意

- 本機能の操作中は、エンジンスイッチを OFF にしないでください。

1 PHONE ボタンとロータリーコマンドーを操作して、DEL DEVICEに切り換える

➔「Bluetooth 接続メニューを切り換える (MVH-580 のみ)」36 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、DEL DEVICEを選ぶ

登録済みの Bluetooth 機器が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、削除するBluetooth機器を選ぶ


メモ

- ロータリーコマンドーを長く押しすと、デバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

4 ロータリーコマンドーを押す

確認画面が表示されます。

メモ

- 操作を中止する場合は、 /DIMMER ボタンを押します。前の画面に戻ります。

5 ロータリーコマンドーを押す

メッセージの表示とともに、選んだ Bluetooth 機器が削除されます。

6 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

Bluetooth 機器を登録する (MVH-580 のみ)

ADD DEVICE

Bluetooth 機器を使うには、本機に Bluetooth 機器を登録する必要があります。本機に登録可能な Bluetooth 機器は、3 台までです。

1 PHONE ボタンとロータリーコマンドーを操作して、ADD DEVICEに切り換える

➔「Bluetooth 接続メニューを切り換える (MVH-580 のみ)」36 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、ADD DEVICEを選ぶ

周辺の Bluetooth 機器を検索します。登録可能な Bluetooth 機器が見つかったら、デバイス名（機器名称）が表示されます。

メモ

- すでに 3 台の Bluetooth 機器が本機に登録されている場合、「DEVICE FULL」と表示されます。登録されている Bluetooth 機器を削除してください（➔「登録済みの Bluetooth 機器を削除する (MVH-580 のみ)」このページ）。
- 登録可能な Bluetooth 機器が見つからなかった場合は、「NOT FOUND」と表示されます。
- お使いの Bluetooth 機器によっては、本機からの検索で見つからない場合があります。その場合は、Bluetooth 機器から登録してください。検出状態の設定が、ON になっている必要があります（➔「Bluetooth 機器からの検出状態を設定する (MVH-580 のみ)」38 ページ）。
- 検索中にもう一度ロータリーコマンドーを押すと、検索を中止します。

3 ロータリーコマンドを回して、登録するBluetooth機器を選ぶ

メモ

- 目的の Bluetooth 機器が表示されていないときは、RE-SEARCH を選びます。
- ロータリーコマンドを長く押すと、デバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

4 ロータリーコマンドを押して、選んだBluetooth機器を接続する

Bluetooth 機器側にパスコードの入力が求められます。Bluetooth 機器を操作して、パスコードを入力してください。

登録が完了すると、本機のディスプレイに、「PAIRED」と表示されます。

メモ

- 工場出荷時のパスコードは、「0000」です。パスコードは変更できます（→「本機のパスコードを変更する（MVH-580のみ）」39ページ）。

5 BAND/↶ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

自動接続を設定する（MVH-580のみ）

A.CONN

本機能を ON にすると、登録済みの Bluetooth 機器の中で、最後に接続した機器に自動で接続できます。

1 PHONE ↶ ボタンとロータリーコマンドを操作して、A.CONNに切り換える

→「Bluetooth 接続メニューを切り換える（MVH-580のみ）」36ページ

2 ロータリーコマンドを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わりません。



3 BAND/↶ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

Bluetooth 機器からの検出状態を設定する（MVH-580のみ）

VISIBLE

本機能を ON にすると、Bluetooth 機器から本機を検出できます。

1 PHONE ↶ ボタンとロータリーコマンドを操作して、VISIBLEに切り換える

→「Bluetooth 接続メニューを切り換える（MVH-580のみ）」36ページ

2 ロータリーコマンドを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わりません。



3 BAND/↶ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

本機のパスコードを変更する (MVH-580 のみ)

PIN CODE

本機のパスコードを変更できます。工場出荷時は「0000」です。

1 PHONE ボタンとロータリーコマンドを操作して、PIN CODEに切り換える

→「Bluetooth 接続メニューを切り換える (MVH-580 のみ)」36 ページ

2 ロータリーコマンドを押して、PIN CODEを選ぶ

3 ロータリーコマンドを回して、パスコードを変更する

■ 入力する数字を選ぶとき
ロータリーコマンドを回す
数字を大きくする：右に回す
数字を小さくする：左に回す

■ 入力する位置を選ぶとき
ロータリーコマンドを押す
押すたびに入力する位置が右に移動します。

4 ロータリーコマンドを長く押す

パスコードの編集を終了します。

本機の Bluetooth 機器情報を確認する (MVH-580 のみ)

DEV.INFO

本機の機器名称 (デバイス名) や機器アドレス (デバイスアドレス) を確認できます。

1 PHONE ボタンとロータリーコマンドを操作して、DEV.INFOに切り換える

→「Bluetooth 接続メニューを切り換える (MVH-580 のみ)」36 ページ

2 ロータリーコマンドを押して、DEV.INFOを選ぶ

3 ロータリーコマンドを回して、情報を確認する

次の順序で切り換わります。

機器名称 (デバイス名)



機器アドレス (デバイスアドレス)

4 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

本機を使った携帯電話の使用方法について (MVH-580 のみ)

本機では、Bluetooth 対応の携帯電話を使用して、ハンズフリー通話ができます。



ご注意

- 携帯電話を使用するときは、必ず安全な場所に車を停車させてください。



メモ

- 初めて本機で携帯電話を使用する場合は、携帯電話を本機に登録する必要があります (→「Bluetooth 機器を登録する (MVH-580 のみ)」37 ページ)。
- 組み合わせる Bluetooth 対応の携帯電話によっては、操作や動作が異なります。携帯電話の取扱説明書も併せてご覧ください。

電話に出る・電話を切る (MVH-580 のみ)

どのソースを聞いているときでも、本機の電源が OFF のときでも、かかってきた電話に出ることができます。

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを押して、電話に出る

電話がつながり、通話できます。



メモ

- 本機のどのボタンを押しても、電話にすることができます。
- 通話中に BAND/🔊 ボタンを押すと、ハンズフリー通話とプライベート通話 (携帯電話で通話) を切り換えることができます。
- 通話中にロータリーコマンダーを押すと、電話の保留と応答を切り換えることができます。
- 通話中に別の電話がかかってきた場合 (割込通話)、ロータリーコマンダーを押すと、通話の相手が切り換わります。
- 着信中にロータリーコマンダーを回すと、着信音量を調節できます。
- 通話中に DISP/TI ボタンを押すと、通話時間と電話番号の表示を切り換えることができます。



ご注意

- 割込通話機能の利用には、携帯電話会社との契約が必要です。
- 割込通話中は、通話の相手を切り換えることはできませんが、通話を個別に切ることができます。
- リモコンの OFF HOOK ボタンを押しても、電話に出ることができます。

2 ロータリーコマンダーを回して、受話音量を調節する

以下のように受話音量を調節できます。

音量を大きくする：右に回す

音量を小さくする：左に回す

3 PHONE 📞 ボタンを押して、電話を切る



メモ

- リモコンの ON HOOK ボタンを押しても、電話を切ることができます。

着信を拒否する (MVH-580 のみ)

電話に出られないときは、着信を拒否できます。また、通話中にかかってきた別の電話の着信を拒否することもできます。

1 電話がかかってきたら、PHONE 📞 ボタンを長く押す

かかってきた電話の着信を拒否します。



メモ

- 通話中に別の電話がかかってきた場合、PHONE 📞 ボタンを長く押すと、かかってきた電話の着信を拒否します。
- リモコンの ON HOOK ボタンを押しても、着信を拒否できます。

PHONE メニューを切り換える (MVH-580 のみ)

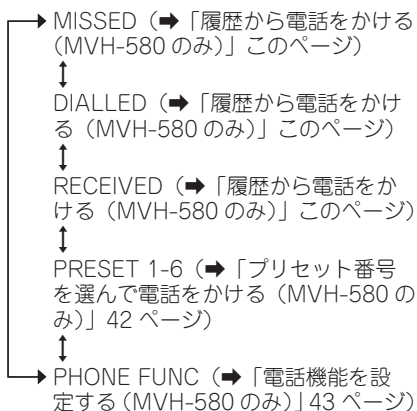
PHONE メニューで以下の機能を選んで操作できます。

1 PHONE ボタンを押す

PHONE メニューが表示されます。

2 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- 携帯電話が接続されていないときは、MISSED、DIALLED、RECEIVED には切り換わりません。

履歴から電話をかける (MVH-580 のみ)

MISSED/DIALLED/RECEIVED

接続中の携帯電話ごとに、不在着信履歴 (MISSED)、発信履歴 (DIALLED)、着信履歴 (RECEIVED) が各 80 件まで本機に記録されます。記録された履歴データから、電話をかけることができます。


1 PHONE ボタンとロータリーコマンダーを操作して、MISSED/DIALLED/RECEIVEDのいずれかに切り換える

→「PHONE メニューを切り換える (MVH-580 のみ)」このページ

2 ロータリーコマンダーを押す

3 ロータリーコマンダーを回して、履歴データを選ぶ

次の履歴データを選ぶ：右に回す
前の履歴データを選ぶ：左に回す

プリセット登録をするときは (→「プリセット番号を選んで電話をかける (MVH-580 のみ)」42 ページ、「プリセットボタンで電話をかける (MVH-580 のみ)」42 ページ)、ここで電話番号を選択し、1 ^ ~ 6  ボタンのいずれかを長く押しします。


メモ

- 登録済みボタンを長く押しすと、上書きされます。

4 ロータリーコマンダーを押す

選んだ履歴データの電話番号に電話をかけます。

メモ

- 通話を終了するときは、PHONE  ボタンを押します。

プリセット番号を選んで電話をかける (MVH-580のみ)

PRESET 1-6

1/∧ ~ 6/↶ボタンに電話番号をプリセット登録し、1 ~ 6のプリセット番号を選んで電話をかけることができます。

履歴から電話番号を選択して登録します (→「履歴から電話をかける (MVH-580のみ)」41ページ)。

1 PHONE ボタンとロータリーコマンドーを操作して、PRESET 1-6に切り換える

→「PHONEメニューを切り換える (MVH-580のみ)」41ページ

2 ロータリーコマンドーを押す

登録済みのプリセット番号が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、プリセット番号を選択する


メモ

- プリセット登録済み 1/∧ ~ 6/↶ボタンのいずれかを押し、選択することもできます。

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだプリセットの電話番号に電話をかけます。

メモ

- 通話を終了するときは、PHONE  ボタンを押します。

プリセットボタンで電話をかける (MVH-580のみ)

1/∧ ~ 6/↶ボタンに電話番号をプリセット登録し、ボタンを押して電話をかけることができます。

履歴から電話番号を選択して登録します (→「履歴から電話をかける (MVH-580のみ)」41ページ)。

1 PHONE ボタンを押す


PHONEメニューが表示されます。

2 1/∧ ~ 6/↶ボタンのいずれかを押す

3 ロータリーコマンドーを押す

プリセットの電話番号に電話をかけます。

メモ

- 通話を終了するときは、PHONE  ボタンを押します。

電話機能を設定する (MVH-580のみ)

PHONE FUNC

1 PHONE ボタンとロータリーコマンダーを操作して、PHONE FUNCに切り換える

→「PHONEメニューを切り換える (MVH-580のみ)」41ページ

2 ロータリーコマンダーを押す

3 ロータリーコマンダーを回して、設定を切り換える

次の順序で切り換わります。

A.ANSR (→「自動着信を設定する (MVH-580のみ)」このページ)



R.TONE (→「着信音を設定する (MVH-580のみ)」このページ)

自動着信を設定する (A.ANSR) (MVH-580のみ)

自動着信設定をONに設定すると、着信後約5秒で自動的に応答して通話できます。

1 PHONE ボタンとロータリーコマンダーを操作して、A.ANSRに切り換える

→「電話機能を設定する (MVH-580のみ)」このページ

2 ロータリーコマンダーを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります

ON



OFF

3 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

着信音を設定する (R.TONE) (MVH-580のみ)

本機側で用意された着信音を使用するかしないか設定できます。

1 PHONE ボタンとロータリーコマンダーを操作して、R.TONEに切り換える

→「電話機能を設定する (MVH-580のみ)」このページ

2 ロータリーコマンダーを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります

ON



OFF

3 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

オーディオ調節メニューを切り換える

「前後の音量バランスを調節する」などの音質調節機能を使うときは、オーディオ調節メニューで操作します。

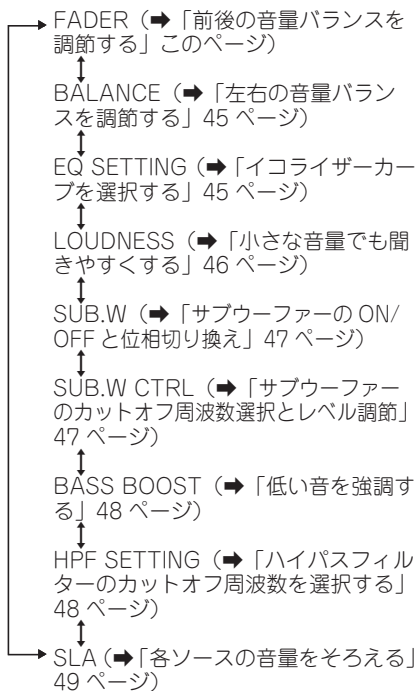
1 ロータリーコマンドーを押して、メインメニューを表示する

2 ロータリーコマンドーを回して、AUDIOを選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押して、オーディオ調節メニューを表示する

4 ロータリーコマンドーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



音を調節する

メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ ボタンを押します (30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

ご注意

- ラジオの FM を聞いているときは、SLA には切り換わりません。
- 交通情報を受信しているときは、FADER と BALANCE のみ選択できます。
- SUB.W を OFF に設定しているときは、SUB.W CTRL には切り換わりません。
- 初期設定メニューで SP-P/O MODE (⇒「リア出力を設定する」50 ページ) を SUB.W/SUB.W に設定しているときは、FADER には切り換わりません。
- 初期設定メニューで SP-P/O MODE (⇒「リア出力を設定する」50 ページ) を REAR/REAR に設定しているときは、SUB.W、SUB.W CTRL、HPF SETTING には切り換わりません。

前後の音量バランスを調節する

FADER

前後のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 ロータリーコマンドーを操作して、FADERに切り換える

⇒「オーディオ調節メニューを切り換える」このページ

2 ロータリーコマンドーを回して、FADERを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、音量バランスを調節する

前を強める：右に回す
後を強める：左に回す

前後のバランスは、F15 ~ R15 の範囲で調節できます。

4 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

左右の音量バランスを調節する

BALANCE

左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BALANCEに切り換える

→「オーディオ調節メニューを切り換える」44ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、BALANCEを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、設定内容を切り換える

右を強める：右に回す
左を強める：左に回す

左右のバランスは、L15～R15の範囲で調節できます。

4 BAND/🔍 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イコライザーカーブを選択する

EQ SETTING

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、好みの音質にできます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、EQ SETTINGに切り換える

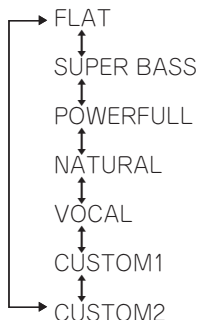
→「オーディオ調節メニューを切り換える」44ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、EQ SETTINGを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、イコライザーカーブを切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- FLATは、イコライザーによる音の補正がされていません。

4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する

メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオメニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BAND/🔍 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イコライザーカーブを調節する

CUSTOM1、CUSTOM2のイコライザーカーブを補正できます。これにより、よりお好みにあった音質を作り出すことができます。CUSTOM1には、調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(USBとiPod、携帯電話の通話音声と交通情報は、同じ設定になります。)CUSTOM2には、すべてのソースに共通したイコライザーカーブとして記憶されます。

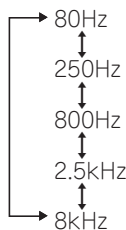
1 「イコライザーカーブを選択する」手順3で、CUSTOM1またはCUSTOM2に切り換える

2 ロータリーコマンドを押して、CUSTOM1またはCUSTOM2を選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドを回して、設定する周波数帯域を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンドを押して、設定する周波数帯域を選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

5 ロータリーコマンドを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする：右に回す
レベルを小さくする：左に回す

レベルは、-6 ~ +6の範囲で調節できます。

6 BAND/↻ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

小さな音量でも聞きやすくする

LOUDNESS

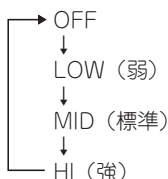
小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じることがあります。LOUDNESSを使うと、この不足感を補って、音を聞きやすくできます。

1 ロータリーコマンドを操作して、LOUDNESSに切り換える

→「オーディオ調節メニューを切り換える」44ページ

2 ロータリーコマンドを押して、LOUDNESSの効果を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



メモ

- ロータリーコマンドを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

3 BAND/🔊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え

SUB.W

本機にサブウーファーを接続して使用する場合は、サブウーファーの設定を ON する必要があります。ON にしたあと、サブウーファーから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えてください。

🔊 位相切り換えとは

- サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域の成分が含まれています。車内条件により、これらの音の位相が反転（干渉）し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件に合わせて位相を正相または逆相に切り換えてください。

正相：サブウーファーの音が、フロント/リアスピーカーと同時に出力される

逆相：サブウーファーの音が、フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1 ローターコマンドーを操作して、SUB.W に切り換える

➔ 「オーディオ調節メニューを切り換える」44 ページ

2 ローターコマンドーを押して、サブウーファーの位相を選ぶ

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 BAND/🔊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節

SUB.W CTRL

サブウーファーから出力される低音域（カットオフ周波数）と出力レベル、スロープを設定します。他のスピーカーから出力される音とのつながりが自然になるように設定してください。

🔊 カットオフ周波数とは

- 選んだ周波数よりも上の周波数（または下の周波数）の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。サブウーファーのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調させることもできます。

🔊 スロープとは

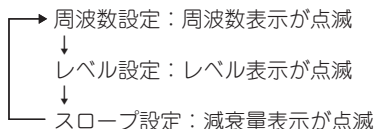
- スロープは、周波数が 1 オクターブ高く（または低く）なったときに、信号が何 dB 減衰するかを表す値です（単位：dB/oct.）。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

1 ローターコマンドーを操作して、SUB.W CTRLに切り換える

➔ 「オーディオ調節メニューを切り換える」44 ページ

2 ローターコマンドーを押して、設定内容を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 ロータリーコマンドーを回して、サブウーファー調整をする

■周波数設定を調節するとき

高い周波数を選ぶ：右に回す
低い周波数を選ぶ：左に回す

カットオフ周波数は、OFF、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hz、160 Hz、200 Hz の中から選べます。

■レベルを調節するとき

レベルを大きくする：右に回す
レベルを小さくする：左に回す

レベルは、- 24 ~ + 6 の範囲で調節できます。

■スロープを調節するとき

減衰量を小さくする：右に回す
減衰量を大きくする：左に回す

減衰量は、- 12 dB/oct.、- 6 dB/oct. の中から調節できます。

4 BAND/↻ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

低い音を強調する

BASS BOOST

低音域を強調することができます。バスブースターのレベルを上げると、迫力のある低音を再生できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BASS BOOSTに切り換える

➔「オーディオ調節メニューを切り換える」44 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、BASS BOOSTを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする：右に回す
レベルを小さくする：左に回す

レベルは、0 ~ +6 の範囲で調節できます。

4 BAND/↻ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ハイパスフィルターのカットオフ周波数を選択する

HPF SETTING

選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれで好み
の周波数を設定できます。(スロープを Pass (0 dB/oct.) に設定するとオーディオ信号はフィルター回路を回避するため、ハイパスフィルターは効果がなくなります。)

！ ハイパスフィルター (HPF) とは

- ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域(低域)をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターを ON にすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節できます。

！ カットオフ周波数について

- 選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

！ スロープについて

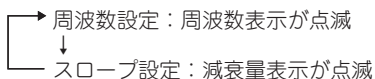
- スロープは、周波数が1 オクターブ高く(または低く)なったときに、信号が何 dB 減衰するかを表す値です(単位: dB/oct.)。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

1 ロータリーコマンドーを操作して、HPF SETTINGに切り換える

➔「オーディオ調節メニューを切り換える」44 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、設定内容を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 ロータリーコマンドーを回して、ハイパスフィルター調節をする

■周波数設定を調節するとき

高い周波数を選ぶ：右に回す

低い周波数を選ぶ：左に回す

カットオフ周波数は、OFF、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hz、160 Hz、200 Hz の中から選べます。

■スロープを調節するとき

減衰量を小さくする：右に回す

減衰量を大きくする：左に回す

減衰量は、 -12 dB/oct. 、 -6 dB/oct. の中から調節できます。

4 BAND/↻ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

各ソースの音量をそろえる

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違ふことがあります。SLA を使うと、FM の音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

▽ SLA とは

- SLA は、「Source Level Adjuster (ソース レベル アジャスター)」の略です。

1 ロータリーコマンドーを操作して、SLAに切り換える

→「オーディオ調節メニューを切り換える」44 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、SLAを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

📌 ご注意

- ラジオの FM を聞いているときは、SLA には切り換わりません。

3 ロータリーコマンドーを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする：右に回す

レベルを小さくする：左に回す

レベルは $-4 \sim +4$ の範囲で設定できます。

4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する

📝 メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BAND/↻ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📝 メモ

- USB と iPod、AM と交通情報は同じ設定になります。

初期設定メニューを切り換える

「リア出力を設定する」などの機能は、初期設定メニューで操作します。初期設定メニューは、電源を OFF にした状態で操作します。

1 SRC/OFFボタンを長く押し、本機の電源をOFFにする

2 ロータリーコマンダーを長く押し、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、INITIALを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、初期設定メニューを表示する


5 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。

SP-P/O MODE (→「リア出力を設定する」このページ)

↓
S/W UPDATE (→「Bluetoothのソフトウェアを更新する (MVH-580のみ)」51ページ)

メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、BAND/ ボタンを押します (初期設定メニューを解除すると、電源が OFF になります)。

リア出力を設定する

SP-P/O MODE

リアスピーカー出力と RCA 出力には、フルレンジスピーカーまたはサブウーファースピーカーを接続できます。それぞれの接続状態に合わせて設定します。

- ①リアスピーカー出力にフルレンジスピーカーを接続し、RCA 出力にサブウーファースピーカーを接続する：
「REAR/SUB.W」に設定します
- ②リアスピーカー出力にフルレンジスピーカーを接続し、RCA 出力に何も接続しない：
「REAR/SUB.W」または「REAR/REAR」に設定します
- ③リアスピーカー出力と RCA 出力にフルレンジスピーカーを接続する：
「REAR/REAR」に設定します
- ④リアスピーカー出力と RCA 出力にサブウーファースピーカーを接続する：
「SUB.W/SUB.W」に設定します

1 ロータリーコマンダーを操作して、SP-P/O MODEにする

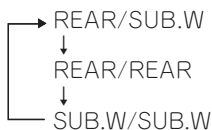
→「初期設定メニューを切り換える」このページ

2 ロータリーコマンダーを押して、SP-P/O MODEを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンダーを回して、設定を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンダーを押して、設定を決定する

5 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります。

Bluetooth のソフトウェアを 更新する (MVH-580 のみ)

S/W UPDATE

本機の Bluetooth ソフトウェアを更新できます。
Bluetooth のソフトウェアについての情報や更新についての詳細は、パイオニアのホームページをご覧ください。

ご注意

- ソフトウェアを更新する前に、Bluetooth 機器との接続を解除してください。更新中は、本機の電源を OFF にしないでください。

ご注意

- アップデート作業中は、本機の電源を OFF にしないでください。

1 ロータリーコマンダーを操作して、S/W UPDATEにする

→ 「初期設定メニューを切り換える」
50 ページ

2 ロータリーコマンダーを押して、S/W UPDATEを選び、更新を開始する

更新が完了すると、「COMPLETED」と表示されます。

3 BAND/📶を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります。

システムメニューを切り換える

「時計を合わせる」などのシステム関連の設定をするときは、システムメニューで操作します。

電源が OFF の状態から操作する

1 SRC/OFFボタンを長く押し、本機の電源をOFFにする

2 ロータリーコマンダーを長く押し、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、SYSTEMを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、システムメニューを表示する

5 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



📌 ご注意

- 車によっては、手順 5 で「DEMO OFF」と表示される場合があります。この表示がされるときは、電源が OFF のときや何も操作しないときに、ファンクションやエンタテインメントの画面が表示されます。次の手順で「DEMO OFF」を非表示にしてください。
 - 1 手順 5 で DEMO OFF に切り換え、ロータリーコマンダーを押す
 - 2 ロータリーコマンダーを回して YES に切り換える
 - 3 ロータリーコマンダーを押す

✎ メモ

- システムメニューを解除するときは、BAND/🔊ボタンを押します (システムメニューを解除すると、電源が OFF になります)。

電源が ON の状態で操作する

1 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

2 ロータリーコマンダーを回して、SYSTEMを選ぶ

3 ロータリーコマンダーを押して、システムメニューを表示する

4 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

機能の切り換えについては、(→「電源が OFF の状態から操作する」このページ)。

✎ メモ

- システムメニューを解除するときは、BAND/🔊ボタンを押します (システムメニューを解除すると、電源が OFF になります)。

時計を合わせる

CLOCK SET

時計を表示するために、時計を合わせておきます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、CLOCK SETにする

→ 「システムメニューを切り換える」
52 ページ

2 ロータリーコマンドーを押し、CLOCK SETを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを押し、時と分を切り換える

時刻を進める：右に回す
時刻を戻す：左に回す

分を調整すると、0 秒からカウントが始まります。

5 BAND/🔊 ボタンを押す

電源が OFF の状態から操作した場合は、再度電源が OFF になります。電源が ON の状態で操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

時計表示を切り換える

12H/24H

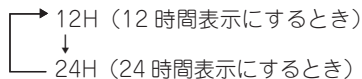
12 時間表示、24 時間表示を切り換えます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、12H/24Hにする

→ 「システムメニューを切り換える」
52 ページ

2 ロータリーコマンドーを押し、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 BAND/🔊 ボタンを押す

電源が OFF の状態から操作した場合は、再度電源が OFF になります。電源が ON の状態で操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

システム設定

外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

AUX

本機にポータブル音楽再生機器や、VTR などの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。

🔊 外部機器を接続するには

- 本機に外部機器を接続するには、本機前面にある AUX 入力端子に、3.5 mm φステレオミニジャックを差し込みます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、AUXにする

→ 「システムメニューを切り換える」
52 ページ

次のページに続く

2 ロータリーコマンドを押して、外部機器設定をONにする

もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/↶ ボタンを押す

電源が OFF の状態から操作した場合は、再度電源が OFF になります。電源が ON 状態で操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- 工場出荷時は、AUX が ON に設定されています。AUX を使用しない場合は、OFF に設定してください。

BT AUDIO ソースを ON にする(MVH-580 のみ)

BT AUDIO

Bluetooth 対応機器を接続して BT AUDIO ソースとして使用する場合、設定を ON にします。

1 ロータリーコマンドを操作して、BT AUDIOにする

→「システムメニューを切り換える」52 ページ

2 ロータリーコマンドを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。

ON
↓
OFF

3 BAND/↶ ボタンを押す

電源が OFF の状態から操作した場合は、再度電源が OFF になります。電源が ON の状態で操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

登録した Bluetooth 機器のデータを消去する(MVH-580 のみ)

BT MEM CLEAR

本機に登録した Bluetooth 対応機器から転送されたデータなどを削除できます。

この機能では、以下の情報が消去されます。

- 履歴データ（不在着信履歴、発信履歴、着信履歴）
- Bluetooth 登録機器リスト
- 編集したパスコード
- プリセット登録 1-6

1 ロータリーコマンドを操作して、BT MEM CLEARにする

→「システムメニューを切り換える」52 ページ

2 ロータリーコマンドを押す

確認画面が表示されます。消去をやめる場合は、ロータリーコマンドを回して CANCEL にします。

3 ロータリーコマンドを押す

登録した Bluetooth 機器の情報が消去されます。消去が完了すると、「CLEARED」と表示されます。

メモ

- Bluetooth 機器の情報が消去できない場合は、「ERROR」と表示されます。

4 BAND/↶ ボタンを押す

電源が OFF の状態から操作した場合は、再度電源が OFF になります。電源が ON の状態で操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

Bluetooth のソフトウェアのバージョンを確認する (MVH-580 のみ)

BT VERSION

本機の Bluetooth ソフトウェアのバージョンを表示して、確認できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BT VERSIONにする

→ 「システムメニューを切り換える」
52 ページ

2 ロータリーコマンドーを押す

本機の Bluetooth ソフトウェアのバージョンが表示されます。

3 BAND/🔍 ボタンを押す

電源が OFF の状態から操作した場合は、再度電源が OFF になります。
電源が ON の状態で操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

瞬時に音を消す (MVH-580のみ)

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音を消せます。

1 リモコンのMUTEボタンを押す

瞬時に音が消えます。
もう一度 MUTE ボタンを押すと、解除されます。

交通情報を受信する

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。交通情報は、電源 OFF のときでも、どのソースからでも受信できます。

1 DISP/TIボタンを長く押し、交通情報を受信する

もう一度長く押すと、交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 ◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押す

交通情報の周波数を切り換えます。

1 620 kHz を選ぶ： ◀ ボタンを押す
1 629 kHz を選ぶ： ▶ ボタンを押す

メモ

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

時計を表示する

本機の電源が OFF のときに、ディスプレイに時計を表示できます。

時計について

- 時計を合わせるには (→「時計を合わせる」53 ページ)

1 DISP/TIボタンを押して、時計を表示する

もう一度押すと、時計表示が解除されます。

イルミネーションメニューを切り換える

本機に設定したい色を、イルミネーションメニューで選びます。

1 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

2 ロータリーコマンダーを回して、ILLUMINATIONを選ぶ

3 ロータリーコマンダーを押して、イルミネーションメニューを表示する

4 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。

COLOR (→「ボタンの色を選ぶ(MVH-580のみ)」57 ページ)

↓
DIMMER (→「ボタンとディスプレイの明るさを調節する」57 ページ)

ボタンの色を選ぶ (MVH-580のみ)

COLOR

あらかじめ用意された色の中から、本機のボタンに設定したい色を選びます。

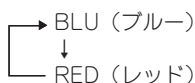
1 ロータリーコマンダーを操作して、COLORに切り換える

→ 「イルミネーションメニューを切り換える」 56 ページ

2 ロータリーコマンダーを押して、COLORを選ぶ

3 ロータリーコマンダーを押して、色を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



ボタンとディスプレイの 明るさを調節する

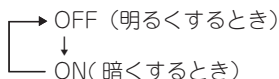
DIMMER

1 ロータリーコマンダーを操作して、DIMMERに切り換える


→ 「イルミネーションメニューを切り換える」 56 ページ

2 ロータリーコマンダーを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



メモ

-  /DIMMER ボタンを長く押しても、明るさを調節できます。
- リモコンの DISP/SCRL ボタンを長く押しても、明るさを調節できます。

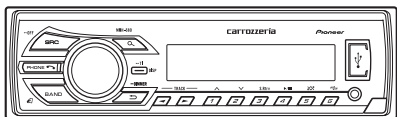
●接続・取り付け上のご注意

- 車への取り付けは、必ず本書と、「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や、指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。
- 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

接続・取り付け部品を確認する

●本体関係

本体 × 1



※ イラストは MVH-580 を示します。

トラスネジ (5 mm × 8 mm) × 4



皿ネジ (5 mm × 9 mm) × 4



●コード関係

電源コード × 1



●マイク関係 (MVH-580 のみ)

ハンズフリー用マイク × 1



マイククリップ × 1



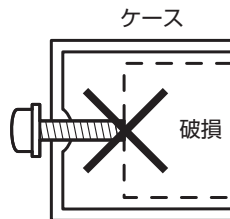
両面テープ (15 mm × 12 mm) × 1



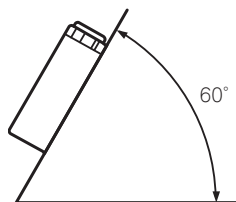
取り付けの前に知ってほしいこと

●取り付け上のご注意

- 必ず本機および取付キットに付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



- 本機の性能を十分に発揮するために、水平に対して 60 度以内の角度で取り付けてください。



●取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

取付キットを別売しています

- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意していますので、販売店にご相談ください。
- ダッシュボード下へ取り付ける場合は、Dサイズ用汎用取付ケースやアンダーダッシュ用取付キットをご使用ください。

アンテナプースターの電源の位置は、車種によって異なります。(ラジオがONにならないと、プースターがONにならない車もあります。)詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

●接続のポイント

ノイズ防止のために

- アンテナコードは、スピーカーコードおよび電源リード線からできるだけ離して配置してください。

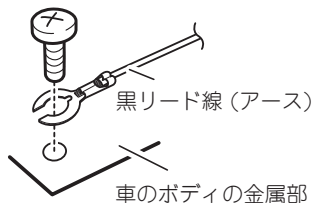
電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなる場合は、バッテリーから直接電源をとることをおすすめします。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

接続の前に知ってほしいこと

●接続上のご注意

- 本機の黒リード線(アース)を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



- 赤リード線(アクセサリ電源)は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には、接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗してしまいます。
- 本機のアンプにはBPTLという回路を使用しています。スピーカーのリード線をアースに接続したり、複数のスピーカーの(-)リード線を、共通にして接続したりしないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーの発火・発煙・破損の原因となります。
- 黒リード線(アース)は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となるおそれがあります。
- ガラスアンテナ車は、アンテナプースターの電源を、必ず本機の青/白リード線(アンテナコントロール)に接続してください。接続を忘れるとラジオが受信できません。

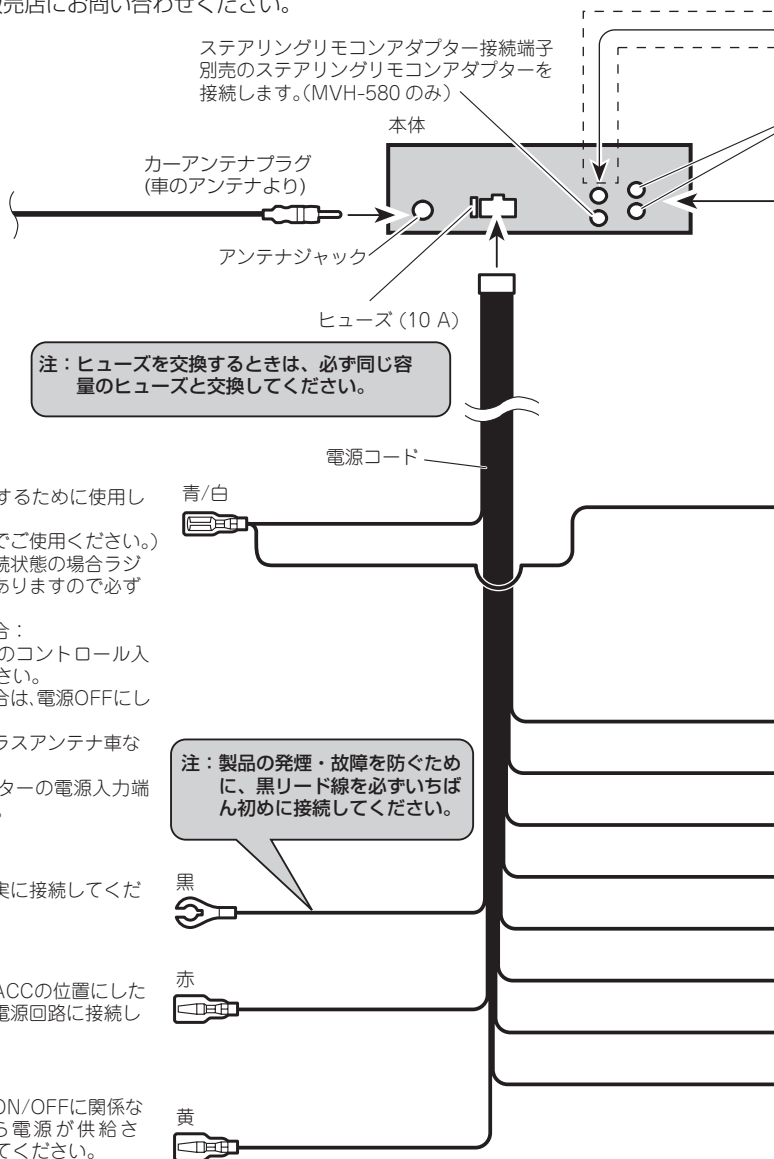
●バッテリー交換時のご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調節などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリー(⇒「放送局を1局ずつ登録する」25ページ)や時計調節(⇒「時計を合わせる」53ページ)を再設定してください。オーディオ調節の設定内容などは、メモリーをおくことをおすすめします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

接続する

本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。(12 V DC、300 mA以内でご使用ください。)下記車両については未接続状態の場合ラジオが受信できない場合がありますので必ず接続してください。

- オートアンテナ車の場合：
車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
※アンテナを下げる場合は、電源OFFにしてください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車などの場合：
車側のアンテナプースターの電源入力端子に接続してください。

アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。

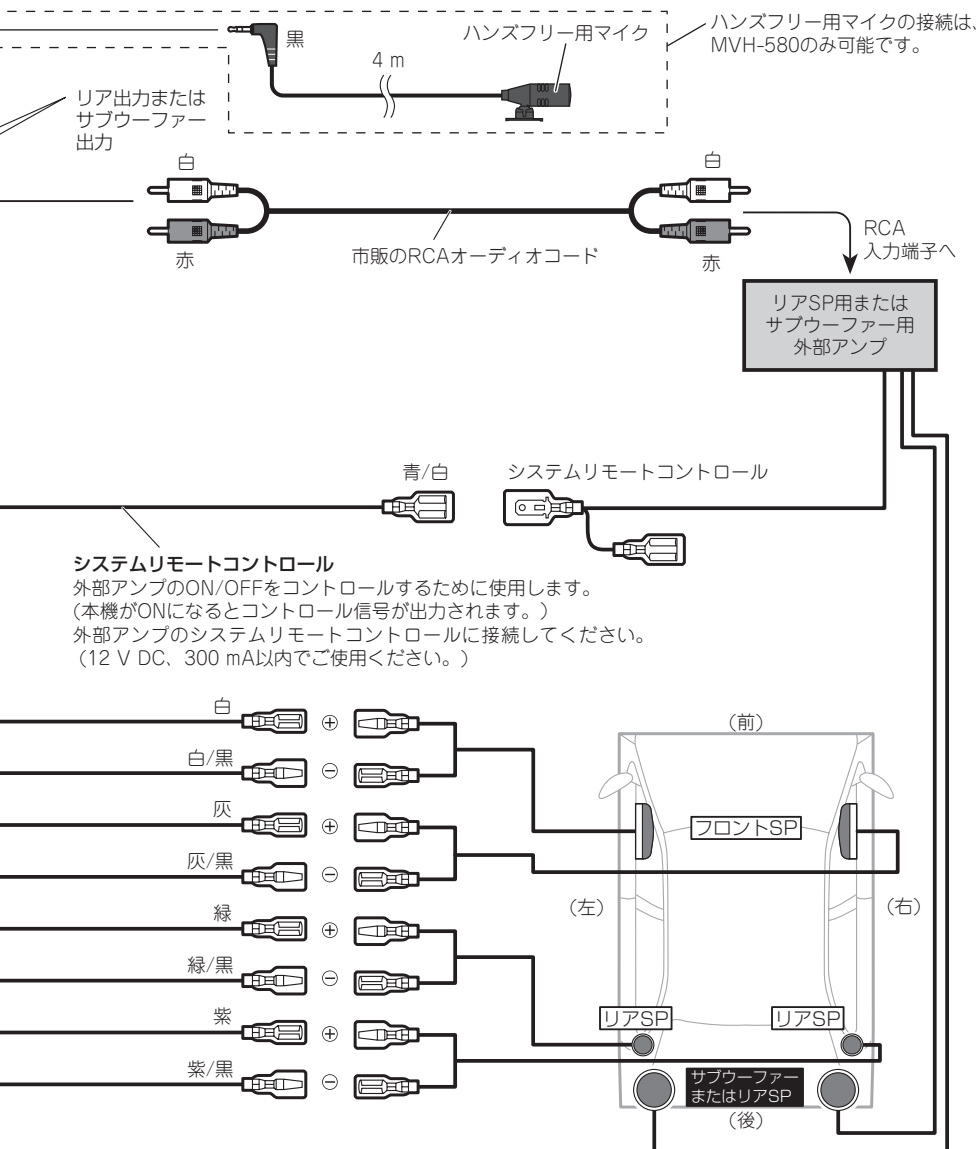
アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCの位置にしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

注：赤、黄リード線は車のヒューズユニットを通した後の端子に接続してください。



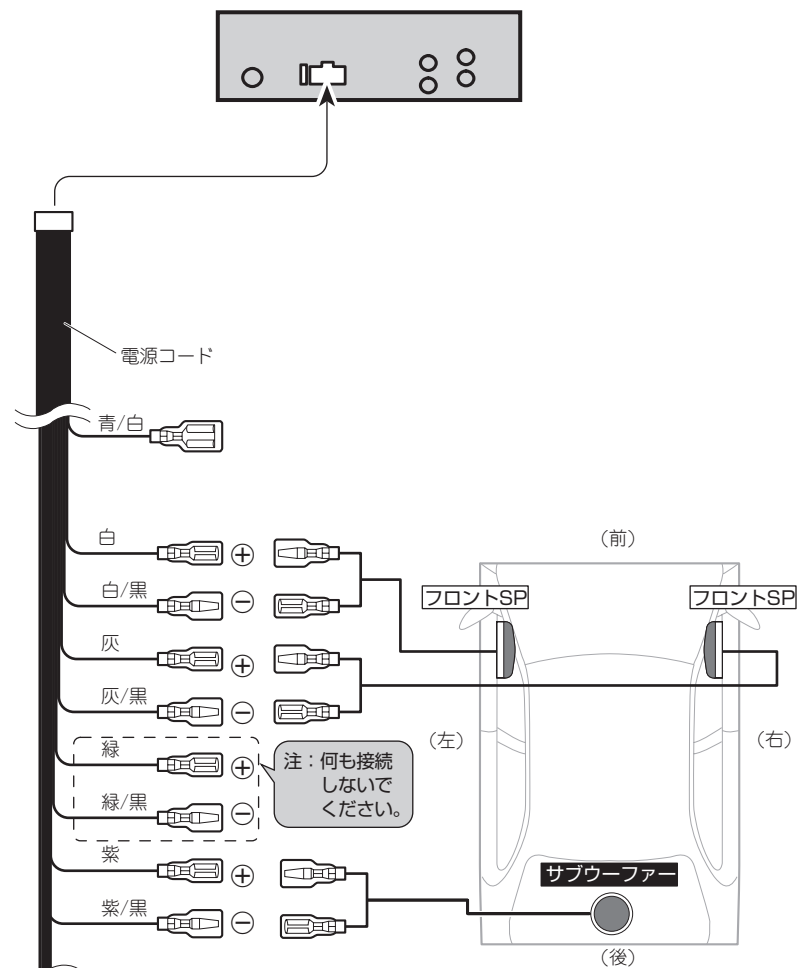
システムリモートコントロール

外部アンプのON/OFFをコントロールするために使用します。
 (本機がONになるとコントロール信号が出力されます。)
 外部アンプのシステムリモートコントロールに接続してください。
 (12 V DC、300 mA以内でご使用ください。)

注：・スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。
 ・リアスピーカー出力とRCA出力に接続するスピーカーに合わせて、SP-P/O MODE (⇒50ページ) の設定を切り換えてください。

本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合 (1)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

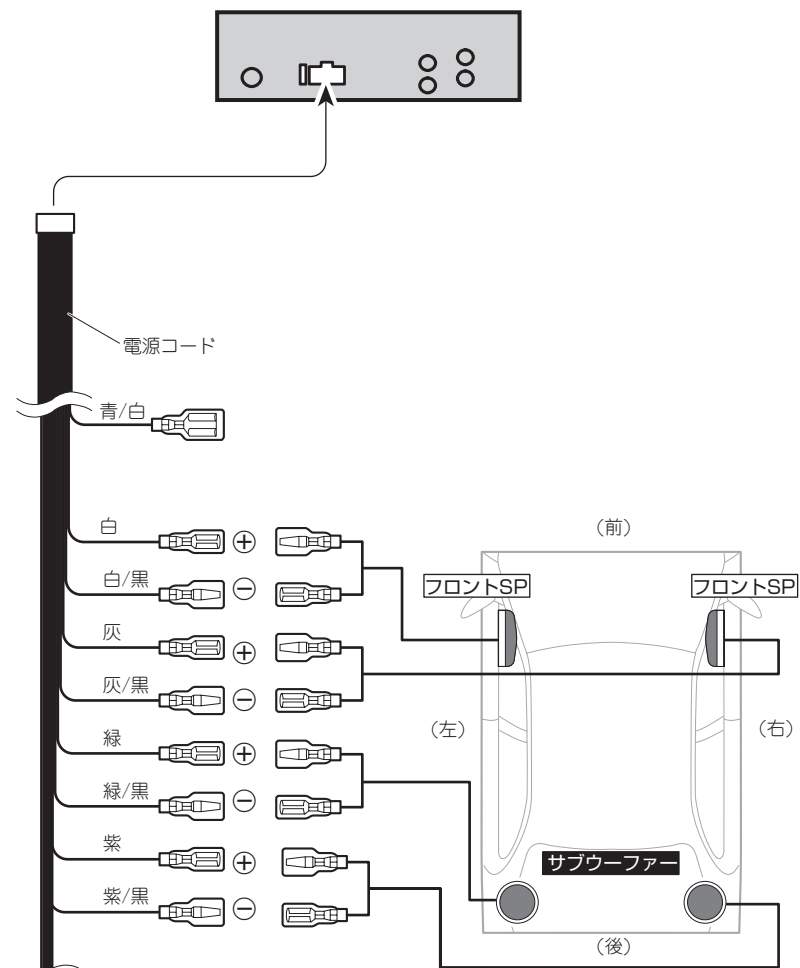


(⇒「本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合」60ページ)

最大出力 50 W × 1ch/4 Ω

本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合 (2)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

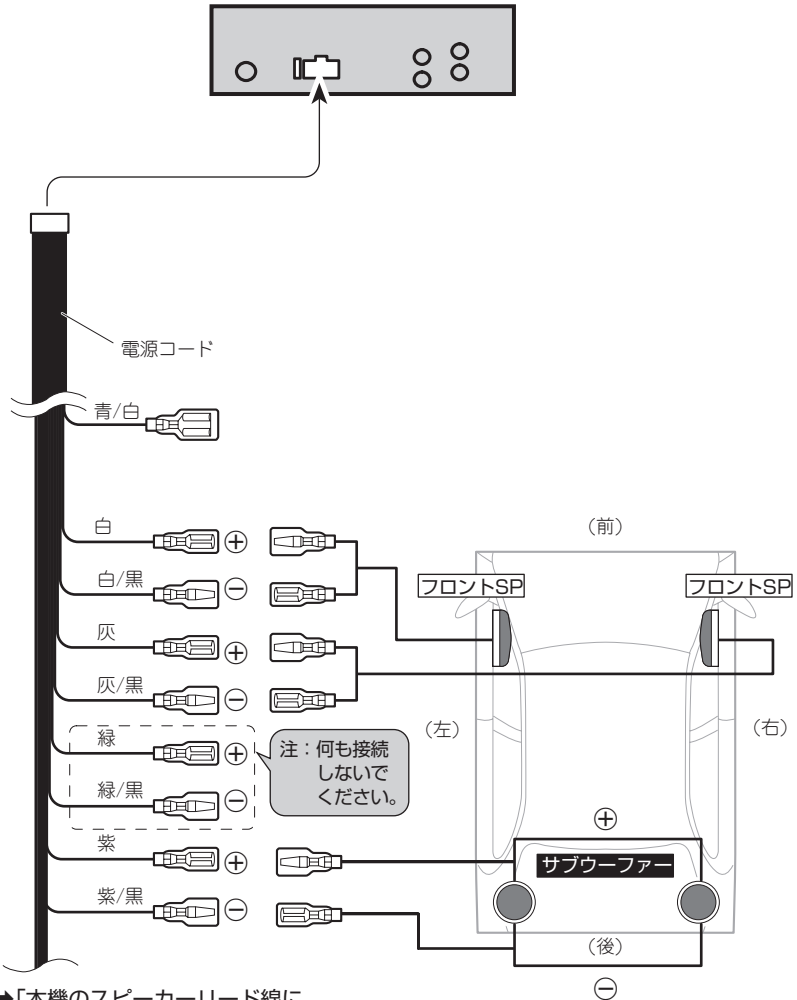


(⇒「本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合」60ページ)

最大出力 50 W × 2ch/4 Ω

本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合 (3)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



(⇒「本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合」60ページ)

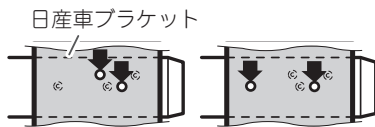
ここでは、サブウーファー (4 Ω) を並列に接続してサブウーファー (2 Ω) として使用しています。

最大出力 70 W × 1ch/2 Ω

本体を取り付ける

取り付け例（トヨタ車、日産車への取り付け）です。

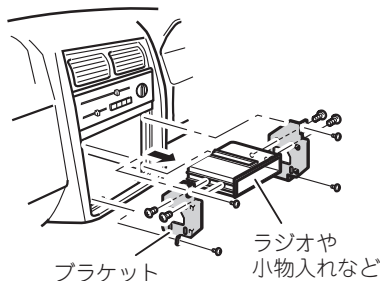
■日産車の場合



1 車のラジオ、小物入れなどを取り外す

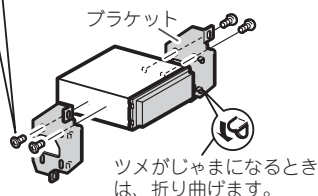
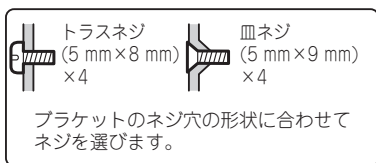
ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。

そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ2カ所ずつ、付属のネジでネジ留めして、元通り車に取り付けます。



📌 ご注意

- 取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

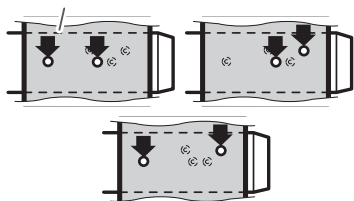
2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。

ブラケットのネジ穴は次のタイプがあります。

■トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。操作方法は（→「フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた」10ページ）

動作を確認する

接続・取り付けが終わったら、次の操作を行って、本機が正常に動作することを確認してください。

1 接続・取り付けをもう一度確認する



確認

- 接続・取り付けに誤りがないか、各コネクタは確実に接続されているか、もう一度、目で見えて確認してください。

2 車のエンジンをかける



3 本機の動作を確認する

確認後にセットアップメニューが自動で起動しますので、設定を行ってください (⇒「初めて本体を使用する際の設定」8 ページ)。

接続・取り付けと動作確認

ハンズフリー用マイクの取り付け (MVH-580 のみ)



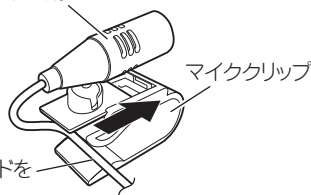
取り付け上のご注意

- ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー(反響音)を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

サンバイザーにはさんで取り付ける場合

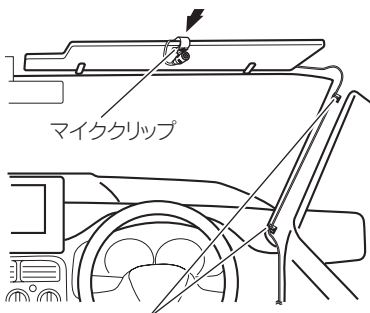
1 マイククリップにマイクを取り付ける

ハンズフリー用マイク



溝にマイクコードを埋め込みます。

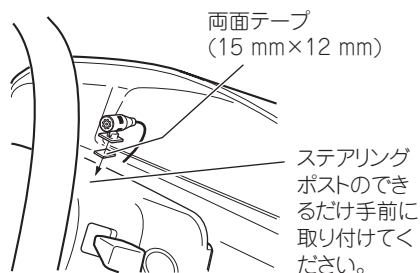
2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける



クランパー(市販品)で要所を固定しながら、マイクコードを引き回します。

ステアリングポストに取り付ける場合

1 ステアリングポストにマイクを取り付ける



クランパー（市販品）で要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、下図のように矢印の方向に動かして調節します。



WMA / MP3 / WAV ファイルについて

●WMA とは？

- ・「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7 以降を使用してエンコードできます。



ご注意

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

●再生できる WMA ファイルについて



ご注意

- WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けしないでください。
- ・再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32 kHz ~ 48 kHz です。
- ・WMA ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) で 48 kbps ~ 320 kbps、VBR (可変ビットレート) で 48 kbps ~ 384 kbps の WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをおすすめします。
- ・デジタル著作権管理 (DRM) で保護されたファイルは、再生がスキップされます。「SKIPPED」と表示されます。

- ・USB 機器内のすべてのファイルがデジタル著作権管理 (DRM) で保護されている場合、その圧縮オーディオファイルは再生できません。「PROTECT」と表示されます。
- ・この製品は、下記の形式には対応していません。
 - Windows Media Audio Professional (5.1ch)
 - Windows Media Audio Lossless (可逆圧縮)
 - Windows Media Audio Voice

●MP3 とは？

- ・「MPEG Audio Layer-3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

●再生できる MP3 ファイルについて



ご注意

- MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けしないでください。

- ・ID3 tag の Ver. 1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4 のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver. 1.X と Ver. 2.X が混在している場合は、Ver. 2.X が優先されます。
- ・サンプリング周波数が 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz の MP3 ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。なお、再生可能なサンプリング周波数は、8 kHz ~ 48 kHz です。
- ・MP3 ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) では 8 kbps ~ 320 kbps の MP3 ファイルの再生に対応しています。また、VBR (可変ビットレート) の再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps 以上のビットレートで記録することをおすすめします。
- ・m3u のプレイリストには対応していません。
- ・MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。

●WAV とは？

- ・「Waveform」の略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

●再生できる WAV ファイルについて

ご注意

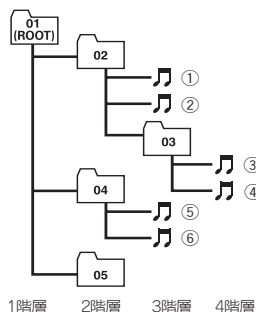
- WAV ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wav) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wav) が付いているファイルを WAV ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAV ファイル以外には拡張子 (.wav) を付けしないでください。
- 本機は、LPCM 形式および MS ADPCM 形式でエンコードされた WAV ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM 形式では 16 kHz ~ 48 kHz、MS ADPCM 形式では 22.05 kHz ~ 44.1 kHz のサンプリング周波数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- WAV ファイルは一般的に、量子化ビット数が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM 形式で 8 bit または 16 bit、MS ADPCM 形式で 4 bit の量子化ビット数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをおすすめします。

ご注意

- USB ポータブルオーディオプレーヤーや USB Mass Storage Class 対応の USB メモリーに収録された WMA / MP3 / WAV ファイルを再生できます。
- USB 機器を本機に接続する際は、別売の USB ケーブル (例: CD-U51E) を使用してください。USB ケーブルを使わずに直接接続すると、USB 機器が突起物となり危険です。指定の USB ケーブル以外は、使用しないでください。
- 接続する USB 機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- 使用する USB 機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- USB ハブを使用しての接続には対応していません。
- USB 機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、USB 機器は必ず固定してください。USB 機器が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- USB メモリー、USB オーディオプレーヤー以外 (USB 扇風機など) は接続しないでください。
- USB 機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。
- 本機との組み合わせで使用時に携帯デジタルプレーヤーや USB メモリーのデータなどが消失した場合でも、その補償については責任を負いかねますのでご了承ください。

USB 機器内のフォルダーについて

- USB メモリー内のフォルダーと圧縮オーディオファイルの構成は、下図のようになります。USB ポータブルオーディオプレーヤーの場合の構成は、プレーヤーによって異なります。



- 01 ~ 05 はフォルダー番号の割り当て、①~⑥は曲の再生順の例です。ユーザーが本機でフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- 圧縮オーディオファイルの再生の順序は、USB メモリーにコピーされた順番と同じです。
- 再生の順序を指定するには、次の方法を推奨します。
 - ① パソコンで、「001xxx.mp3」や「099yyy.wma」など順番を示す数字をファイル名の先頭に付ける。
 - ② それらのファイルをフォルダーに入れる。
 - ③ フォルダー単位で USB メモリーにコピーする。ただしパソコンの環境によっては、この方法で指定できない場合もあります。
- 再生できるファイルの合計は、最大 15 000 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 500 フォルダーです。
- 8階層までのWMA / MP3 / WAV ファイルの再生に対応しています。
- USB 機器のフォルダー階層が多い場合、再生が始まるまでに時間がかかります。
- 画像データを含む圧縮オーディオファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- ファイルをエンコード / ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。
- m3u のプレイリストには対応していません。

iPod について

●本機が対応する iPod

- 本機は以下の iPod に対応しています。本機で確認済みのソフトウェアのバージョンは次のとおりです。これ以前のバージョンについては保証できません。

Made for

- 第 4 世代 iPod touch : Ver. 5.1.1
 - 第 3 世代 iPod touch : Ver. 5.1.1
 - 第 2 世代 iPod touch : Ver. 4.2.1
 - 第 1 世代 iPod touch : Ver. 3.1.3
 - iPod classic 160G : Ver. 2.0.4
 - iPod classic 120G : Ver. 2.0.1
 - iPod classic : Ver. 1.1.2
 - iPod 第 5 世代 : Ver.1.3
 - 第 6 世代 iPod nano : Ver. 1.2
 - 第 5 世代 iPod nano : Ver. 1.0.2
 - 第 4 世代 iPod nano : Ver. 1.0.4
 - 第 3 世代 iPod nano : Ver. 1.1.3
 - 第 2 世代 iPod nano : Ver. 1.1.3
 - 第 1 世代 iPod nano : Ver. 1.3.1
 - iPhone 4S : Ver. 5.1.1
 - iPhone 4 : Ver. 5.1.1
 - iPhone 3GS : Ver. 5.1.1
 - iPhone 3G : Ver. 4.2.1
 - iPhone : Ver. 3.1.2
- 最新の情報についてはカロッツェリア ホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。
 - 操作方法は、iPod の世代やソフトウェアのバージョンによって異なることがあります。
 - iPod を接続するには、iPod 用 USB 変換ケーブル (例: CD-IU51) が必要です。
 - ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字以内です。



ご注意

- iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPod を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPod は必ず固定してください。iPod が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPod の取り扱いについて詳しくは、iPod の説明書をお読みください。

● iPod の設定について

- 音質効果を最適にするために、iPod が接続されると、本機は iPod の EQ の設定を自動的に「FLAT」に変更します。取り外すと、設定は自動的に元に戻ります。
- iPod を本機に接続している場合、CTRL iPod モード中以外では、iPod のリピートは「オフ」に設定できません。また、iPod のリピートが「オフ」に設定されていても、本機に接続すると、自動的に「すべて」に変更されます。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



それでも直らないときは

「保証書とアフターサービス」をお読みになり、修理を依頼してください。

●共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください。 車両のバッテリーのマイナス端子を外して、1分後再接続してください。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものとの交換してください。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を調節してください (⇒「基本的な操作」14 ページ)。
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (⇒「前後の音量バランスを調節する」44 ページ)。
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (⇒「前後の音量バランスを調節する」44 ページ)。
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (⇒「左右の音量バランスを調節する」45 ページ)。
本機が誤動作する。 雑音が入る。	携帯電話などの電波発信機器を本機に近づけて使用している。	電波発信機器を本機から離してご使用ください。

●ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください (⇒「ラジオのふだんの操作」14 ページ)。
	放送局の電波が弱い。	ほかの放送局を選局してみてください (⇒「ラジオのふだんの操作」14 ページ)。
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください (⇒「ラジオのふだんの操作」14 ページ)。
FMは受信するが、AMが受信できない。 受信感が悪い。	アンテナコントロールが接続されていない。	アンテナコントロールを正しく接続してください (⇒「接続する」60 ページ)。
	自動車のアンテナが伸びていない。	アンテナを十分に伸ばしてください。

●AUX

症 状	原 因	処 置
音が出ない。 音が小さい。	外部機器 (AUX) の音量を下げて いる。	外部機器 (AUX) の音量を調節して ください。
	抵抗入り AUX ケーブルを使用して 接続している。	抵抗なし AUX ケーブルを使用して 接続してください。

●BT AUDIO (MVH-580 のみ)

症 状	原 因	処 置
再生できない	Bluetooth 機器との接続が完了して いない。	接続が完了してから操作してくださ い (→「本機と Bluetooth 機器の接続 (MVH-580 のみ)」36 ページ)。
	Bluetooth 接続した携帯電話を使用 中である。	同時に複数の Bluetooth 機器は使用 できません。接続を切り換えてくだ さい (→「接続する Bluetooth 機器を切 り換える (MVH-580 のみ)」36 ペ ージ)
	Bluetooth 接続した携帯電話を使用 後、接続終了動作が正しく行われな かった。	再度接続してください (→「本機と Bluetooth 機器の接続 (MVH-580 のみ)」36 ページ)。

こんなメッセージが表示されたら

正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

●共通のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「AMP ERROR」	スピーカーの接続状態または本機に異常があり、保護回路が動作した。	スピーカーの接続状態をご確認ください。 エンジンスイッチを OFF → ON してもメッセージが消えない場合は、販売店またはバイオニアカスタマーサポートセンターにご相談ください。

●USB のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」	USB コネクターまたは USB ケーブルがショートした。	USB コネクター / USB ケーブルが何かにはさまっていないか、破損していないか確認してください。
「N/A USB」	接続された USB 機器が本機に対応していない。	接続した USB 機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にしてください。次に、対応する USB 機器を接続してください。
「NO AUDIO」	何も収録・保存されていない USB 機器を接続した。	対応する圧縮オーディオファイルが収録・保存された USB 機器を接続してください。
「PROTECT」	セキュリティ機能付きの USB メモリーを接続した。	USB メモリーの説明書に従って、セキュリティを解除してから使用してください。
「SKIPPED」	USB 機器内のすべての WMA ファイルが Windows Media DRM 9 / 10 で保護されている。	Windows Media DRM 9 / 10 で保護されていない圧縮オーディオファイルが収録・保存された USB 機器を接続してください。
「ERROR-19」	Windows Media DRM 9 / 10 で保護された WMA ファイルを再生した。	以下のいずれかの処置を行ったあと、ソースを USB に切り換えてください。 車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON する。 / 接続した USB 機器を一度外してから接続する。 / 別のソースに切り換える。
「ERROR-23」	接続された USB 機器のフォーマットが、FAT32 / FAT16 か FAT12 ではない。	フォーマットが、FAT32 / FAT16 か FAT12 の USB 機器を接続してください。

● iPod のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」	iPod は動作するが、充電されない。	iPod ケーブルがショートしていないか (たとえば、金属物にはさまれていないか) 確認してください。確認後、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、iPod を一度脱着してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。 iPod に問題が発生した。	コネクタを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
「ERROR-16」	iPod ソフトウェアのバージョンが古い。 iPod に問題が発生した。	iPod ソフトウェアのバージョンをアップデートしてください。 コネクタを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
「NO SONGS」	iPod に曲が入っていない。	iPod に曲を転送してください。
「STOP」	選んだプレイリストに曲が入っていない。	曲が入っているプレイリストを選んでください。

● Bluetooth のエラー表示 (MVH-580 のみ)

メッセージ	原因	処置
「ERROR-10」	本機の Bluetooth モジュールに通信できない。	車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にしてください。それでも正常に動作しない場合は、お近くの販売店にご相談ください。
「NO SERVICE」	Bluetooth 機器が本機に接続されていない。	Bluetooth 機器を本機に接続してください。

●保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

●保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

●保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご連絡ください。連絡先については、裏表紙の「修理窓口のご案内」をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

●ご質問、ご相談は

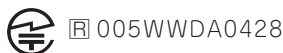
本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

- 本製品は、電気通信事業法に基づく設計認証を取得しています。



- 本機内蔵の通信モジュールは、電波法に基づく設計認証を取得した特定無線設備（FC6000S）を使用しています。

FC6000S



●WMA

Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。

●MP3

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- ・営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、インターネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子放送番組の配布システムなど。

●iTunes

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

● iPod & iPhone

iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch は米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。



「Made for iPod」および「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod あるいは iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。このアクセサリを iPod あるいは iPhone と使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

● Bluetooth

Bluetooth[®] ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する商標であり、パイオニア株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。他のトレードマークおよび商号は、各所有権者が所有する財産です。



おもな仕様

●共通部

使用電源：	DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：	マイナスアース方式
最大消費電流：	10.0 A
外形寸法	(取付寸法) : 178 (W) mm × 50 (H) mm × 165 (D) mm (ノーズ寸法) : 170 (W) mm × 46 (H) mm × 15 (D) mm
質量：	0.7 kg (コード含まず)

●アンプ / オーディオ部

最大出力：	50 W × 4 70 W × 1 ch / 2 Ω (for サブウーファー)
定格出力：	22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz, 5 % THD, 4 ohm LOAD, Both Channels Driven)
負荷インピーダンス：	4 Ω (4 Ω ~ 8 Ω 使用可能)
プリアウト最大出力レベル：	2.2 V
インピーダンス：	1 k Ω
ラウドネスコンター：	10 dB (100 Hz) 6.5 dB (10 kHz) (ボリューム：- 30 dB)
イコライザー (5 バンドグラフィックイコライザー)	周波数 : 80 Hz / 250 Hz / 800 Hz / 2.5 kHz / 8 kHz 調整幅 : ± 12 dB (2 dB step)
サブウーファーアウトブット	周波数 : 50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz スロープ : - 12 dB, - 6 dB/oct. 調整幅 : - 24 dB ~ + 6 dB 位相 : NORMAL / REVERSE

●USB 部

USB 規格：	USB 2.0 Full Speed
最大供給電流：	1 A
USB クラス：	マストレージクラス
ファイルシステム：	FAT12, FAT16, FAT32
MP3 デコーディングフォーマット：	MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
WMA デコーディングフォーマット：	Ver. 7, 7.1, 8, 9, 10, 11, 12 (2 ch audio) (Windows Media Player)
WAV シグナルフォーマット：	Linear-PCM, MS ADPCM

●FM チューナー部

受信周波数帯域：	76.0 MHz ~ 90.0 MHz
実用感度：	9 dBf (0.8 μV / 75 Ω, モノラル, S/N : 30 dB)
S/N：	72 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率：	0.3 % (65 dBf 入力, 1 kHz, ステレオ), 0.1 % (65 dBf 入力, 1 kHz, モノラル)
周波数特性：	30 Hz ~ 15 000 Hz (± 3 dB)
ステレオセパレーション：	45 dB (65 dBf 入力, 1 kHz)

●AM チューナー部

受信周波数帯域：	522 kHz ~ 1 629 kHz
実用感度：	25 μ V (S/N : 20 dB)
S/N：	62 dB (IHF-A ネットワーク)

●Bluetooth 部 (MVH-580 のみ)

Bluetooth バージョン：	Bluetooth 3.0 certified
出力：	最大 +4 dBm (Power class 2)

●付属品



コードユニット：	1
ハンズフリー用マイク (MVH-580 のみ)：	1 式
取付ネジ類：	1 式
取扱説明書：	1
リモコン (MVH-580 のみ)：	1
リチウム電池 (CR2025) (MVH-580 のみ)：	1
保証書：	1



メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーコールは、携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。

また、【一般電話】は、携帯電話・PHS・IP電話などからご利用可能ですが、通話料がかかります。

正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただけますようお願いいたします。

ご相談窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■ カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話  **0120-944-111** 【一般電話】 **044-572-8101**

ファックス **044-572-8103**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかをご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付窓口（沖縄県を除く全国）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話  **0120-5-81028** 【一般電話】 **044-572-8100**

ファックス  **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair/>

※家庭用オーディオ/ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを受付けております

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話 【一般電話】 **098-987-1120**

ファックス **098-987-1121**

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話  **0120-5-81095** 【一般電話】 **044-572-8107**

ファックス  **0120-5-81096**

記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.045

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

© パイオニア株式会社 2012

<KFWMX> <12E00000> <QRA3021-A/M>